

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（経営者）	・通常の年末需要に加えて、エコポイント制度が相乗効果となって、薄型テレビの販売が堅調に推移する。
	やや良くなる	家電量販店（店長）	・エコポイント制度におけるポイント申請に伴う商品券等の使用が増加するため、今後については良くなる。
		家電量販店（地区統括部長）	・ここ2年間、OA機器やパソコンの不振が続いていたが、新しいOSの発売に伴い、パソコンの売行きが上向く。
	変わらない	商店街（代表者）	・来客数、単価が落ち込んだままの状況が続いている。イベントやセールを仕掛けても前年の50%達成が当たり前という状況であり、今後も変わらないまま推移する。
		商店街（代表者）	・冬のイルミネーション事業とクリスマスイベントが11月末から行われることから集客増が見込まれる。年末商戦の販促イベントと相まって、特に衣料品及び食料品の販売量が増加する。
		商店街（代表者）	・節約ムード、デフレ、所得低迷などの傾向は変わらないため、客の消費動向も消極的なままで推移する。特に最近では若者層の購買力が低下している。
		商店街（代表者）	・2～3か月後はセール商戦真っ最中となるが、現在の景気の状態等からは、ボーナスへの期待感などで購買意欲が増すことにはならず、現在の状況とそれほど変わらずに推移する。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今年に入ってから、底ばいの状況が続いており、現在の社会情勢を考慮すると短期間で変わるのには難しい。
		百貨店（役員）	・客の低価格志向が更に鮮明になりつつある。客単価が低下することで、低価格商品を取り扱う店舗の来客数、販売量は伸びることになるが、低価格志向に対応できない百貨店業界は厳しさが続く。
		スーパー（店長）	・来客数は前年を上回っているが、単価の低下傾向は変わらないため、今後も変わらないまま推移する。
		スーパー（役員）	・今年は農作物の作柄が悪く、今後の農家の収入が激減する。来客数や客単価などの数値の動きからやや良くなるとの期待感もあるが、地域特性から農家の収入減少が景気に大きな影響を与えることになる。
		コンビニ（エリア担当）	・自動車産業では回復がみられるが、影響が限定的であり、地域全体の景気を引き上げるほどの経済効果は無い。また、他の製造業は依然として回復がみられないため、消費の抑制が当面続く。そのため、小売業は値引き競争がより激化することになる。
		コンビニ（エリア担当）	・引き続き週末や休日の来客数が前年を上回って推移しているが、平日は夜間を中心に来客数の減少が続いている。全体的には、客の消費マインドの低迷が続いており、今後も変わらないまま推移する。
	家電量販店（店員）	・エコポイント制度の効果により、引き続き薄型テレビや冷蔵庫の販売量が伸びていることから、今後も変わらないまま推移する。	
	乗用車販売店（営業担当）	・今後については、メーカーによるハイブリット車の投入の効果で、市場がある程度は活性化する。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・客の健康に対する関心度は相変わらず高いが、財布のひもは固いままであることから、今後についても変わらないまま推移する。	
一般レストラン（スタッフ）	・相変わらず客単価の低下が続いていることから、今後もデフレ傾向が続く。		
旅行代理店（従業員）	・11～12月の受注状況は前年とほとんど変わっていないことに加えて、現在の低価格商品へのシフトを考慮すると、今後の景気が上向くことはない。		
タクシー運転手	・10月1日からタクシー適正化・活性化法が施行され、新規参入や増車が規制されるようになるが、今まで増えすぎたタクシーを減らすような方策はすぐには実行できないため、これまでの供給過剰な状況に変わりはなく、景気もすぐに良くなることはない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手 通信会社（社員）	・電話注文数が増加するような要因が見当たらない。 ・必要最低限の商品を選ぶ客の思考が相変わらず強く、景気向上策や魅力的な新商品が出ない限り、現在の状況は変わらない。地上デジタル放送やインターネット、固定電話などのサービスの普及もある程度進んでいるため、低価格競争が進まない限り、客の購買意欲は変わらない。
		観光名所（役員）	・9月の大型連休の観光入込は予想以上に順調であったものの、10月以降の予約状況等は今一つである。また、外国人観光客についても上向き兆しが見えないことから、今後も厳しい状況が続く。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	観光期も終わり、今後利用者が大幅に増加する見込みはない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	ややデフレの傾向にあり、この影響が来月以降、徐々に出てくる。
		スーパー（企画担当）	・年末年始にかけての先行きの消費行動は予測しづらい面もあるが、新型インフルエンザの流行に伴って、大型商業施設での買物を手控える動きが出てくることなどが懸念される。
		スーパー（役員）	・冬のボーナスの増額が期待できないため、客の消費動向も良くはならない。
		コンビニ（エリア担当）	・価格の安い商品へのシフトが続いており、今後、その傾向が強まることはあっても、弱くはならない。
		高級レストラン（経営者）	8月の最盛期が終わり、9月に入り売上が落ち込んでいるため、今後はやや悪くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・秋の恒例の旅行会を新型インフルエンザの影響で中止にする企業も多く、今後のマスコミの報道に旅行者が大きく左右される。新型インフルエンザの終息と個人所得の増加が見込まれない限り、回復の見込みは無く、厳しい状況が長引く。
		観光型ホテル（経営者）	・例年であれば、正月の予約が入り始めている時期であるが、今年は個人客の動きが鈍い。また、地方の航空路線が縮小傾向にあることから、今後、本州方面からの団体客の減少が懸念される。
		旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザのワクチンの対応の悪さもあり、先行受注は前年の80%にとどまっていることから、今後についてはやや悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・悪い状態が恒常化している。2～3か月先の先行受注状況は、国内旅行で前年の約70%、海外旅行で前年の約80%となっており、今後については、やや悪くなりつつある。また、販売単価も国内旅行で前年を2～3%、海外旅行で前年を5～6%下回っている。レギュラー商品がなかなか売れないため、廉価版の商品を追加して不足分を補おうとしているが、廉価商品しか売れず、悪循環となっている。
		旅行代理店（従業員）	・円高の効果により、海外旅行の需要が増加することを期待しているが、新型インフルエンザの流行に伴いコンベンションや文化イベント、スポーツ大会、修学旅行等の延期や中止が懸念される。また、直前取消の際の交渉によっては、費用を負担するようなケースが出てくる。
		通信会社（企画担当）	・政権交代にともなう公共投資等への予算削減により、企業の景気が後退することになるため、今後についてはやや悪くなる。
観光名所（職員）	・10月以降の新型インフルエンザの影響が懸念されること、台湾や韓国などの海外旅行者の減少がみられることなどから、今後についてはやや悪くなる。		
美容室（経営者）	・新政権の具体的な政策がはっきりとしないため、これからの世の中に対する不安感が出てきている。家計の支出を抑える雰囲気を感じられるため、今後についてはやや悪くなる。		
企業動向関連	悪くなる	-	-
	良くなる	-	-
	やや良くなる	家具製造業（経営者）	・景気の底打ち感を受け、高額所得者層の購買意欲が高まりつつあることから、今後についてはやや良くなる。
変わらない	食料品製造業（役員）	・受注増につながるような案件が見当たらないため、今後についても変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（経営者）	・政権交代により、公共工事については補正予算の執行が不透明であり、先の見通しが立たない。民間工事については、相変わらず引き合いも少なく単価の面でも非常に厳しい。
		輸送業（営業担当）	・10月から生乳の買取価格が1キログラム当たり2円40銭下がるものの、飼料製品価格が1トン当たり1,500円下がるなど、酪農家にとっての好材料があることから、今後の出荷量が増加する。
		金融業（企画担当）	・景気対策の効果で土木建設業では持ち直しの動きが続くほか、家電量販店や自動車販売店でも、年内はエコポイント制度やエコカー減税などの効果が持続する。しかし、雇用環境や所得環境は厳しさを増しているため、個人消費などは弱含みでの推移となる。また、新型インフルエンザの流行も予想される。総じて、景気は横ばいでの推移となる。
		司法書士	・土地の価格が安定しないため、売主側が売買取引に消極的である。また、土地の売買取引は建物の建築数と比例していることから、今後についても変わらないまま推移する。
		司法書士	・新政権の景気対策が不明確なことから、様子見の客が多くなり、今後についても変わらないまま推移する。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・多少良くなりそうな気配があったが、政権が変わったことで予算の執行が遅れるような話もあるため、どうなるか見当が付かない。
	やや悪くなる	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・公共工事が更に減ることが懸念されるため、今後についてはやや悪くなる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・新政権が公共事業の削減を掲げていることから、受注額の減少が懸念される。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・政権交代の影響で関連する入札物件の停止が数件起きている。個々の影響は少ないが、今後、どのような影響が出てくるのか不安な面がある。
	悪くなる	建設業（従業員）	・政権交代にともない補正予算が見直されていることから、今後、公共事業が縮減する。前政権で推進していた公共施設の耐震化事業も雲行きが怪しくなっている。箱物の建設も皆無となることが懸念され、建設業で倒産が相次ぐ恐れがある。
通信業（営業担当）		・新政権の誕生により、構造的に官需要に依存する面が大きい道内の景況感には下降線をたどることになる。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・製造業関連の求人が増加しつつあることから、今後についてはやや良くなる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・企業業績回復の見通しが立たないなか、人材派遣や中途採用の動きは鈍いものとなっており、現時点と大きく変わる要素が見当たらない。年末のパート需要も前年に比べて弱含みである。
		人材派遣会社（社員）	・事務系派遣の求人が落ち込んでいる一方で、コールセンターの求人にはまだ動きがみられていたが、その採用も段々と少なくなっていることから、今後についても厳しいまま変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人広告の業種、職種別に若干の増減はあるものの、全体としては現状のまま推移する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・これまでの、地域特性として農業の繁忙期には加工工場などでの派遣募集広告が底堅くあったが、今年はそうした動きも減少傾向にあり、数か月先の好転材料が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・企業は受注減に悩んでおり、求人数の回復にはまだ時間がかかる。
		職業安定所（職員）	・雇用保険資格喪失者数のうち、事業主都合離職が前年から20.7%増加し、13か月連続での増加となっていることから、今後も厳しいまま変わらない。
		職業安定所（職員）	・雇用環境に明確な回復の兆しがなく、経済全体の自律回復にも時間がかかりそうである。また、政権交代の直後であり、今後の経済対策の効果に具体的な予測が立たないため、今後についても厳しいまま変わらない。
学校〔大学〕（就職担当）	・良くなるような要素、指標がないことから、雇用環境は横ばいで推移する。2011年卒業生の就職支援を学内でスタートしているが、この先も不確実性が一段と高まることを想定した学生指導を行っている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる		
	悪くなる	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	-	-	
		やや良くなる	商店街（代表者）	・閉店してシャッターの降りている店舗の改装や開店が続いており、商店街への来客数増加に期待している。
			百貨店（企画担当）	・前年は厳しい水準であり、今後の景気は前年を上回って推移する。
			百貨店（販促担当）	・特選ブランドや高額品の売上は低迷しているが、値下げ商品を買求めるために来客数が増加する。
			スーパー（営業担当）	・製造業の稼働率が回復しており、雇用環境や個人所得の回復が期待できる。
			家電量販店（店長）	・省エネ家電のエコポイント制度の効果により、今後も売上が増加する。
			乗用車販売店（経営者）	・環境対応車への減税や補助金の効果や新型車の発表、さらに新政権の高速道路政策への期待から、年内は販売台数が前年を上回って推移する。
			高級レストラン（支配人）	・法人の利用申込が増加するにつれて、今後は個人客が増加する。
			一般レストラン（経営者）	・来客数の回復傾向が続き、最悪の状態からの脱出に期待できる。
			一般レストラン（スタッフ）	・前年に比べて来客数、売上共に増加傾向が続く。
		観光名所（職員）	・週末や休日は高速道路料金引下げの効果があり、今後も個人乗船客の増加が見込まれる。	
	変わらない		商店街（代表者）	・新政権による安定を望んでいるものの、失業率や雇用の先行きに不安があり、今後も消費マインドの低迷は続く。
			商店街（代表者）	・商工会議所がプレミアム付き商品券を発売したため、消費の喚起に期待している。
			一般小売店〔酒〕（経営者）	・タスポ効果が一巡して、売上は底の状況で推移していることから、今後は回復を期待する。
			一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・県知事選挙後の状況変化は予想できないが、現在の厳しい状況は当分続く。
			一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・新型インフルエンザ関連商品などの売上は期待できるが、その他の商品は売上が低迷し、景気回復の兆しは見当たらない。
			百貨店（売場主任）	・暖冬傾向が予想され、冬物衣料は売上が低迷する。
			百貨店（経営者）	・衣料品部門の売上は前年並みで推移するが、高価格商品の売上は今後も厳しい状況が続く。
			百貨店（経営者）	・景気対策の効果はあるものの、冬のボーナスの増額は期待できないため、当分消費マインドが低迷する。
			スーパー（店長）	・来客数、1品単価共に今後も低迷する。
		スーパー（店長）	・消費者の財布のひもは固くなっており、来客数、客単価、売上共に今後も低迷が続く。	
	スーパー（店長）	・消費者の低価格志向が強まっており、当分厳しい状況が続く。		
	スーパー（店長）	・競合店の状況も変わらず、景気回復の材料も見当たらず、現状からの回復は当分難しい。		
	スーパー（店長）	・競合店の新規出店により、価格競争が激しさを増す。		
	スーパー（店長）	・総選挙は終わったが、景気が良くなる要因がみられず、今後も厳しい状況は続く。		
	衣料品専門店（経営者）	・話題となる商品もなく、景気回復の兆しがみられない。		
	衣料品専門店（経営者）	・景気の低迷は続き、小売業は今後も厳しい状況が続く。新政権の景気対策に期待したい。		
	衣料品専門店（店長）	・ビジネススーツやカジュアル衣料は景気に左右されるため、今後も売上は安定しない。		
	衣料品専門店（総務担当）	・消費者は必要な物だけを購入しており、今後も買上点数、客単価共に低迷が続く。		
	家電量販店（店長）	・消費者は買物に慎重で、必要な商品以外は購入しない傾向がしばらく続く。		
	乗用車販売店（経営者）	・環境対応車への減税や補助金を利用する客の受注がしばらく続き、年内の売上は前前年並み水準で推移する。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・燃料灯油価格の上昇や先行きの不安により、消費マインドの停滞が続く。新政権による中小企業対策に期待したい。
		乗用車販売店（経営者）	・環境対応車への減税や補助金の効果で、年末まで新車販売台数が好調に推移する。
		乗用車販売店（従業員）	・景気が悪くて自動車の販売台数は低迷しているが、環境対応車への減税や補助金を利用する買換え需要は当分続く。
		住関連専門店（経営者）	・新政権の景気対策は不透明で、地方経済の低迷は続く。
		住関連専門店（経営者）	・所得の減少を理由に、アルバイトやパートを探す人が増加しており、消費の回復には当分時間がかかる。
		その他専門店〔呉服〕（経営者）	・依然として消費者の財布のひもは固く、生活必需品ではない呉服の売上は今後も低迷が続く。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・先行きへの不安や冬に備え、消費者の生活防衛志向が強まり、財布のひもは固くなる。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・9月の大型連休の効果が続き、本格的な観光シーズンも来客数の増加が期待できる。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・景況回復の兆しはみられず、消費者の動向も現状維持が続く。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・暖冬が予想され、暖房需要の商戦は苦戦するため、今後も売上は厳しい状況が続く。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・販売量は変わらないが、利幅が縮小しており、厳しい経営は今後も続く。暫定税率など新政権の政策は先行きに不安がある。
		一般レストラン（経営者）	・来月に知事選が予定されており、出控えによる来客数の低迷が予想される。
		スナック（経営者）	・景気の悪化により来客数、売上共に今後も低迷する。
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・低価の弁当は売れる傾向にあるが、利益が少ないため収益の改善にはつながらない。
		観光型ホテル（経営者）	・遠方からの予約客は増加しているものの、地元の利用客が減少しており、売上は前年を下回る見込みである。
		観光型ホテル（スタッフ）	・法人客の予約は低迷しているものの、観光シーズンの予約は前年並みに入っている。
		観光型旅館（経営者）	・紅葉シーズンの予約は前年並みで推移する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新政権の政策実行には時間がかかり、消費者は低迷している景気に不安があるため、今後も消費マインドは低迷する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・法人客の予約が減少しており、厳しい売上が続く。
		タクシー運転手	・景気回復の兆しはみられない。
		タクシー運転手	・求職者の増加傾向が続き、今後も個人消費は低迷する。
		通信会社（営業担当）	・企業は経費削減を強化しており、消費の回復には時間がかかる。
		美容室（経営者）	・新政権の政策実施には時間がかかり、景気の先行きが不透明なため、消費者の買い控えが続く。
		美容室（経営者）	・消費マインドの回復には時間がかかり、美容業界の厳しい状況は当分続く。
		設計事務所（経営者）	・公共事業が動きだして、設計業務の受注増加を期待する。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・景気回復の要因はみあらず、消費者の低価格志向が強まる。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・日帰りの観光客は増加しているものの、宿泊客が減少しているため、売上の減少が懸念される。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・政権交代後の社会不安により、消費マインドが低迷するため、消費者の低価格志向が強まる。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・経済の国際化、政権交代による輸出競争力の弱体化、財政悪化による景気対策縮小など、地方景気に明るい材料はみられない。
		一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・夏のボーナス同様に冬も減額が予想され、個人消費は今後も低迷する。
		百貨店（経営者）	・所得水準の低迷や新型インフルエンザ流行の懸念から、消費マインドは低下する。
		百貨店（売場担当）	・財布のひもは固く、防寒アイテムは持っているもので済ませるため、冬物においても買い控えが続く。
		スーパー（経営者）	・一部工場では稼働率が改善しているものの、多くの工場は低操業が続き、ハローワークへの求職者が増加する。今後も個人所得の減少により、一段と消費者の低価格志向が強まる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		スーパー（総務担当）	・公共工事の効果には時間がかかり、消費マインドの冷え込みにより、景気は当分厳しい状況が続く。		
		コンビニ（経営者）	・周囲の企業で事務所移転の計画があり、来客数の減少が懸念される。		
		コンビニ（経営者）	・失業者の増加により、消費支出の減少が続く、今後売上の落ち込みが予想される。		
		コンビニ（エリア担当）	・最盛期の夏以降は季節的にも売上が低迷し、景気の悪化による来客数の減少が懸念される。新型インフルエンザの流行など、景気回復の材料はみあたらない。		
		コンビニ（店長）	・新政権への期待と不安が消費マインドの向上につながらず、今後も消費の低迷が続く。		
		衣料品専門店（経営者）	・新型インフルエンザの流行により、消費者の出控えが続く、売上は減少する。		
		衣料品専門店（店長）	・光熱費などの出費が優先されるため、衣料品の売上は低迷する。		
		衣料品専門店（店長）	・量販店などで扱う低価格なスーツの品ぞろえが増えており、小規模店は来客数の減少が予想される。		
		家電量販店（店長）	・企業の上期決算の状況が悪く、冬のボーナスも減額が予想されるため、今後も消費の低迷が続く。		
		住関連専門店（経営者）	・新政権による政策が落ち着くまで、消費マインドは低迷する。		
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・消費者の財布のひもは固くなっており、地方では景気回復に時間がかかる。		
		一般レストラン（支配人）	・新型インフルエンザ流行の影響により、今後は来客数の減少が懸念される。		
		都市型ホテル（経営者）	・予約状況は各部門とも前年を下回っており、新型インフルエンザの流行による来客数の落ち込みが懸念される。		
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型インフルエンザの流行が懸念されるため、売上は厳しい状況が続く。		
		旅行代理店（店長）	・新型インフルエンザ流行の兆しがみられ、また家庭ではレジャー支出を削減するため、旅行の予約状況は国内、海外共に前年を下回る見込みである。		
		遊園地（経営者）	・従業員の家族などで新型インフルエンザ患者が発生しており、冬にかけての流行が懸念される。		
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・燃料や原材料の価格が再び上昇しており、一層の深刻な状況が予想される。		
		悪くなる		スーパー（経営者）	・円高など景気の不安材料が影響して、小売業界では1品価格の下落が懸念される。
				スーパー（経営者）	・新政権の景気対策は不透明であり、公共投資の見直しなどで地元の建設業界は停滞が予想される。また新型インフルエンザの流行により、生活防衛型消費が強まる。
				衣料品専門店（経営者）	・受注生産の予約は低迷しており、当分回復が見込めない。
				衣料品専門店（店長）	・上期決算の悪化により、冬のボーナスなど個人所得が減少し、個人消費の落ち込みが予想される。
旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザの流行により、旅行申込の減少が懸念される。				
タクシー運転手	・平日の昼間、40～50代で仕事に就いていない人を街角で多く見かけるようになり、今後も労働環境は悪化が予想される。				
住宅販売会社（従業員）	・高齢者宅のリフォーム件数は増えているものの、新築の受注は今後も低迷が続く。				
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-		
		食料品製造業（経営者）	・行楽期や年末にかけて、高速道路料金引下げの効果が続き、今後も販売量の増加に期待できる。		
		輸送業（経営者）	・一部の得意先では、製品の受注回復の情報がある。		
		広告業協会（役員）	・ショッピングセンターの新規出店のほか、明るさのみえる自動車販売店や不動産業による、広告の受注は増加する。		
		広告代理店（経営者）	・前年末から広告予算は引き締められているが、今後は受注の増加が見込まれる。		
	変わらない	農林水産業（従業者）	・りんごの作柄が順調であり、今後も前年並みの売上が期待できる。		
		食料品製造業（経営者）	・平日の売上は低迷しており、今後も売上の厳しい状況が続く。		
		食料品製造業（総務担当）	・家庭での消費量は前年並みで推移するが、原料資材の値上がりにより、今後は収益が悪化する。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		電気機械器具製造業（営業担当）	・一部企業では底打ちという話も聞かすが、中小企業の回復には時間がかかる。		
		建設業（経営者）	・今後はリフォームや新築工事の受注が少なく、厳しい状況は続く。		
		建設業（企画担当）	・今後も設備投資を控える状況がしばらく続く。		
		通信業（営業担当）	・相変わらず得意先との契約維持は厳しい状況で、今後も明るい兆しはみあたらない。		
		金融業（広報担当）	・改善の傾向にはあるが、一部企業の微弱な動きにとどまっております、全体をけん引する動きには程遠い状況である。		
		経営コンサルタント	・県知事選挙後も先行きは不透明である。		
		司法書士	・不動産取引が減少しており、今後も登記の依頼は低調に推移する。		
		公認会計士	・得意先の業績は前年に比べて売上が低迷しており、今後も厳しい状況は続く。		
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・働き盛りの世代は、特に生活に余裕がなく、景気や生活の先行きに不安があるため、今後も消費の低迷が続く。		
		その他企業〔管理業〕（従業員）	・大量に発生する失業者は再就職先を見つけられず、景気の低迷は当分続く。		
		金属工業協同組合（職員）	・今後は納期やコストダウンの要請が更に厳しくなるとともに、受注量の減少が予想される。		
		やや悪くなる		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・失業率の悪化と個人消費の低迷により、景気の落ち込みが予想される。
				一般機械器具製造業（経理担当）	・円高が進行し、また環境対応車特需の反動減が予想され、自動車部品の受注は減少する。
電気機械器具製造業（企画担当）	・売上の半分は輸出製品が占めており、今後も円高が進めば売上の悪化が予想される。				
建設業（従業員）	・公共事業の今後の方針が決まるまで、様子見の状況が続く。				
新聞販売店〔広告〕（店主）	・購読部数、チラシ折込件数共に減少傾向が続いており、底が見えない状況である。				
その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・繁忙期の年末にかけて飲食店の不振が予想され、売上は悪化する。				
悪くなる				コピーサービス業（経営者）	・総選挙後、自治体や民間からの受注が停止しており、売上は落ち込む。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・新政権の住宅や環境に関する政策が不透明なことから、得意先住宅会社の受注は停滞する。		
雇用関連	良くなる	-	-		
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・県知事選挙後は、大規模工場の移転が本格化するなど、求人広告の増加が期待できる。		
		職業安定所（職員）	・今後も求人数は少ないものの、雇用調整や解雇者は減少する傾向にある。		
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・得意先は規模の縮小が相次いでおり、今後も派遣求人数は増加する要因が見られない。		
		人材派遣会社（社員）	・地方の支店などを閉鎖する企業は今後も続く。		
		人材派遣会社（社員）	・今後も派遣求人数の低迷は続き、新たな産業などの雇用創出に期待する。		
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・一部業種で求人数を増やしているが、今後も求人数の低迷は続く。		
		職業安定所（職員）	・日々の求人件数が回復傾向にあるものの、今後の回復を示す確かな情報はない。		
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は底を打って回復傾向にあるものの、有効求人数は依然として減少傾向が続いており、今後も予断を許さない状況が続く。		
		職業安定所（職員）	・生産の回復している企業もあるが、円高傾向など先行きは不透明であり、雇用においては厳しい状況が続く。		
		職業安定所（職員）	・今後も企業整備の相談があり、求人数の増加する要因がみあたらない。		
		職業安定所（職員）	・今後、新たにワークシェアに取組む企業の増加は見込めない。		
	職業安定所（職員）	・新規求人数に増加の動きはあるものの、依然として前年を下回っており、新たに雇用調整を実施する企業からの相談も続いている。			
	やや悪くなる	アウトソーシング企業（社員）	・自治体からの業務の受注は、今後も低迷が続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・製造業の生産は低調で、雇用調整を実施する事業所が増加傾向にあるため、今後も景気回復の兆しはみられない。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・人材派遣の規制が強化され、今後人材派遣の求人が減少する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型インフルエンザの流行の懸念があり、景気はさらに悪化する。

### 3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・地上デジタル放送の盛り上がりで、テレビ等の動きが良くなっている。さらに、エコポイント効果も徐々に上がってきている。
		百貨店（販売促進担当）	・昨年9月の米国の大手金融機関の破たん以来の大変な消費の冷え込み時期に比べれば、マインド的に客は少なからず新しい商品を求める傾向にある。今後はアパレルを中心に春夏のような底を脱した感があるので、店頭での売上向上に期待が出来る。
		スーパー（統括）	・食品の単価はさらに下がるものの、来客数、点数が徐々に戻り始めてきており、年末に向けて多少明るい兆しが見え始めてきている。
		コンビニ（経営者）	・これから暮れの商戦が始まるので売上が少し伸びる。
		コンビニ（経営者）	・年末商戦が始まること、競合店のリニューアルオープンが12月ごろと聞いているので、それまでは良くなる。
		家電量販店（店長）	・年末年始に向けて、エコポイントによる購買の動機付けがこのまま作用すれば、景気は期待出来る。
		旅行代理店（従業員）	・これ以上景気が悪化することはない。新しく政権も変わったので、景気に対する期待感がバックアップをして、旅行需要もどんどん喚起されてくるのではないかと思われる。
		その他レジャー施設〔アミューズメント〕（職員）	・平均単価を落としながらも、家計全体を縮小均衡する傾向である。9月の大型連休や高速道路料金引下げがあったが一時的なもので、縮小均衡の中で我々のような低単価で楽しめるものはそれほど苦しくはないので、ある程度は回復する。
	変わらない	商店街（代表者）	・プレミアム付き商品券を発行しても80%の人が大型店に流れてしまう現状である。駅前通りといっても昼間は相変わらず閑古鳥が鳴いている。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・今のところ良くなる話題があまり無い。外に出て沈んでいるというような寂しい話が多い。
		百貨店（総務担当）	・本県では10月より子どもの医療費が無料になるので多少は品物の動きに転化する。
		百貨店（営業担当）	・客の消費動向を見ていると、やはり慎重になっており、複数点数を買わないというのがよく目立つ。今後も余計なものは買わない傾向が続く。
		百貨店（営業担当）	・景気が悪くなり、1年が経つころには下げ止まりも弱くなるが、失業率など社会情勢を考えると、予断を許さない。
		百貨店（販売促進担当）	・大半の客の消費行動における最優先事項は価格となっており、また、高速道路料金引下げ等による郊外への流出が増加する中、更なる来客数減少、客単価低下が予想される。
		スーパー（総務担当）	・期待感はあるが、なかなかそれが実態に結び付いていない。期待している減税等が実行され、それが実態に結び付くかといったところがポイントとなる。
		コンビニ（店長）	・特別客の購買の様子に変化はない。
		衣料品専門店（店長）	・衣料品の動きが全体的にも厳しい。
		衣料品専門店（店長）	・ボーナスシーズンではあるが、円高や株価の下落等があるために支給の厳しい企業が多く、財布のひもはなかなか緩まない。
		衣料品専門店（統括）	・この時期は当店では売上が上がる時期でもあり、来客数も増える時期であるが、非常に心配される状況が続いている。客が1日でも早く、買いたいという気持ちになって欲しい。
	家電量販店（営業担当）	・国の補正事業関係では、見直しや凍結などで予定していた案件がストップしている。何か月もかけて進めていた仕事の修正ができない。	
	乗用車販売店（販売担当）	・中古車の落ち込みが厳しい。今のままの状態であれば悪い状況が2、3か月先も変わらない。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（営業担当）	・ハイブリッド、エコカー以外の商談が少なく、車検、板金等サービス面での需要が少し多くなってきている。会社内の売上比率を見ても高くなってきている。
		乗用車販売店（営業担当）	・車が売れる要素が全く無い。
		自動車備品販売店（経営者）	・非常に収縮型というか、工場の仕事が無く、それに関連して周辺の住民等が大分不安になっている。金を使うことを大分押さえているので、将来的に受身になり、良い期待は出来ない。
		住関連専門店（仕入担当）	・デフレの基調は今後も続き、加速する。
		住関連専門店（開発業務責任者）	・将来に対しての不安感が払しょくされないと、買物の動向が上がらない。
		スナック（経営者）	・客の話では、倒産している会社が多くなってきており、新しく客が増えるのは難しい。
		観光型ホテル（営業担当）	・当地は冬がオフシーズンとなるため、グリーンシーズンの好調がこれからも続くものかは見当がつかず、営業努力にかかっている。
		都市型ホテル（経営者）	・自動車産業の町なので円高になるとますます厳しくなる。
		都市型ホテル（支配人）	・この先の予約があまり入っていない。ビジネスの動きがまだまだ弱い証拠である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・単価ばかり安くなっていては、老舗は本当に負けてしまう。新しい宿泊特化型ホテルが進出しても、やはり非常に厳しい。大手企業が動かないというのは今後も非常に危惧される状態である。
		旅行代理店（支店長）	・個人の旅行は2、3か月先も同じような感じが続く。特に年末年始が絡んでくるので個人需要は変わらない。団体法人関係は新型インフルエンザが大きく影響するのでそれによって今後の販売、景気にかかわってくる。
		テーマパーク（職員）	・一部の業種においては景気の改善が見受けられるものの、世間一般にはまだまだであり、かつ、旅行などの娯楽費に反映するまでは時間を要する。
		遊園地（職員）	・来客数は前年を上回る状況が続いているが、一般家庭の所得減少によるレジャー支出抑制の影響が大きく、もうしばらくは消費単価の大幅な伸びが期待できない。
		ゴルフ場（従業員）	・来場予約はほぼ前年と同じである。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・競合他社の1社が閉場したことによって、当社に回ってきて若干上向きであるが、客は1日分の料金を払う安いところへ流れているようで、平日、土日の料金格差が出てきている。全体的な売上増にはなっていない。
		その他サービス〔フィットネスクラブ〕（マネージャー）	・退会者のアンケートの動向でフィットネスクラブの料金が高いという項目が1番になっているところから、財布のひもが非常に固くなっている。今後も非常に厳しい。
		設計事務所（所長）	・今のような悪い状況のまま推移する。
		設計事務所（所長）	・来月は決算キャンペーンということもあり、1人でも多く客に来場してもらい、1つでも多く受注できるよう努力したい。
		住宅販売会社（経営者）	・非常に物が動かなくなっている。デフレも非常に進んでいるので、客がもっと下がるだろうと買い控えの状況にある。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・秋の運動会シーズンが始まったが、余計な物は絶対には買わない。世の中の金回りも悪くなっており、ますます必要以外のものを買わなくなる。
		商店街（代表者）	・年末商戦の話がでてこない。イベントの企画も今一つ乗りが悪く、商店街の店は空き店舗が埋まらずにいる。
		一般小売店〔乳業〕（経営者）	・地域の工場の受注状況はまだまだ回復しきらず、新たに人員の整理に入るところもある。また、10月目安で閉鎖の工場もあり、工場内の需要増はまだまだ見込めない。個人消費も更に冷え込む可能性もある。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・最近、客単価が低くなって、高級品が売れず客は安いものばかりに集中している。これからの年末商戦に向けて思いやられる。
		スーパー（経営者）	・消費者の節約志向は更に強まっていく。
		スーパー（経営企画担当）	・デフレ化の勢いはまだまだ止まらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・今月は3か月前比売上90%、昨年同月が3か月前比105%で前年比88%と、下げ止まる気配がまるでない。近くに新設された8月より稼動しているショッピングタウンが最大の影響であるが、客が値段の安いほうへとシフトして、買上単価が大きく落ちている。3か月後の年末商戦は、我々零細商店にとってますます厳しさが増す。
		衣料品専門店（販売担当）	・来客数そのものが減っている。そのような中でこれからこまめにいろいろな工夫をしていきたいとは思っているが、それでもやはり先行き不安が払しょくしきれない部分があるようで、反応が鈍い。
		一般レストラン（経営者）	・このところ既存の商店街は常連客のみで、夜のフリー客減少が客単価低下につながっている。
		観光型ホテル（経営者）	・前年比で10月以降の来客数が昨年より減少している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・新型インフルエンザのまん延シーズンに入って来ているため、その警戒感からか来客数が減ってくる。
		旅行代理店（副支店長）	・秋から冬に新型インフルエンザの影響で旅行客の減少が予想される。また、燃油の値上がりも気になるところで、燃料値上りは旅行客だけではなく景気に影響してくる。
		通信会社（経営者）	・家電はエコポイントの関係で多少商品が動いているが、それ以外の商品はほとんど動かない。景気回復の兆しも見えない状況である。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・地域の仕事量が減っていくのをひしひしと感じる。町工場の縮小による従業員、特にアルバイトが切られている中、毎年車検があるはずの貨物自動車も減車している。
		住宅販売会社（経営者）	・売り地在庫が数年前からの奇跡的な手配より確保できているが地価下落で地主が手放そうとしないことから、在庫の確保が困難となっている。地価下落で計画を下方修正せざるをえない。
		悪くなる	
コンビニ（経営者）	・来月、目の前の角のところに競合店がオープンする。		
スナック（経営者）	・どこまで落ちていくか全く見えない。		
設計事務所（経営者）	・先が全然見えない。建設業界はまだまだ厳しい。		
設計事務所（経営者）	・受注が減っている。		
企業動向関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・3か月インフレーション上でも、月を追って増加傾向に入ってきている。昨年と比べると様変わりし、2年前の水準に戻りつつあるという状況で、景気は上向きに戻りつつある。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・ものづくり中小企業製品開発等支援補助金の採択が決まり、その他の開発品の仕事が重なって行くので、9月から7か月間、通常の生産営業活動と重なる。
	やや良くなる	食料品製造業（営業統括）	・これからぶどう狩りのシーズンになり工場の見学者も増え、ボジョレーヌーヴォーの効果も出てくる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・短期間のスポットではあるが自動車関連の増産に伴い、部署によっては3直24時間の生産体制をとる予定であり、売上は確実に上昇する見込みである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・前年比の受注高は当月65%となっている。10月以降、70%まで回復する予定である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・客先の新機種受注に期待をしている。
		輸送業（営業担当）	・冬物や家電商品等の物量はそこそこ動いているが、デフレによるコスト見直しや運賃値下げ依頼もあり、厳しいこともある。
	変わらない	一般機械器具製造業（経理担当）	・親企業からの注文は増えず、単価はどんどん下がるだけで、良いことは無い。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・すでにかかなりの落ち込みをしており、それ以上の落ち込みはない。秋口に需要が回復出来ない会社で危機的な状況に陥る。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・チラシ出稿の中で、スーパー関係でも枚数を絞り込んできている店があり、サイズ、色共にダウンするケースも見られる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連		経営コンサルタント	・雇用、家計の先行き見通しが不透明なため、企業の動向も見えにくい。
		社会保険労務士	・今のところ年末にかけて受注が増えていく様子がない。だからだと今の状態がしばらく続く。
		司法書士	・今月良かったのは一過性であり、今後も厳しい状況が続く。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・情報化投資は先送りになっており、厳しい状況は当分続く。
	やや悪くなる	食料品製造業（製造担当）	・いまだにデフレ傾向であり、競争相手は当社の原価で販売している。一体どんな製造工程、流通、経営をすればそのような価格で出来るのか。適正な価格帯が求められるが、スーパーとの価格競争の狭間で会社の体力が奪われるのも時間の問題である。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・客はかなり厳しく、それが受注量の減少につながっている。状況の変わり映えがしない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・民間の設備投資が冷えているなか、9～10月は景気対策のお陰で売上が少し伸びそうだが、11月以降は元に戻ってかなり状況が悪くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注が無く、全く先が見えない。不安のみが残って、会社の維持をするのがやっとの状況である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・公共事業の仕事も10月ぐらいで一段落してしまう。11月以降の仕事量の減少を非常に心配している。
		金融業（総務担当）	・経費をさらに削減するよう指示が来る予定であるが、削れるところはかなり削ってきたのもうやりようがないという感じである。毎年定期的に掛かる支出についても以前はすんなり承認されたが、少しでも減額できないかとか、緊急性のないものはもう少し先に等と言われるようになってきている。
	悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・季節商材はわずかながら受注出来たものの、年末年始の受注状況及び自社製品販売見込みは全く予想できない。
		金属製品製造業（経営者）	・客からの説明会があり、10月から仕事が半分になる。
		建設業（総務担当）	・安値受注のため決算は赤字であり、4期連続の赤字になる。このことで金融機関からの追加融資が受けられず、資金繰りに大きな問題を常にかかえている状況である。
		広告代理店（営業担当）	・地元経済に回復という文字のかけらも見えない。倒産の噂がまた増えてきている。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・一時帰休等の雇用調整が一段落する会社が出て来ているが、エコ関連政策の状況を見ながらの動きである。求人募集も期間契約社員等の臨時的な求人が目立つ。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・野菜果物が一部を除いては微量だが上がってきている。所得割合についても、製造業関係の給与、ボーナスも頭打ちの状態もしくは減ったと企業の話をしているので、この先も不透明感が見受けられる。
		人材派遣会社（経営者）	・今までは季節のサイクルによって、忙しくなったり暇になったりするのだが、季節に関係なく仕事の量が減っている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数及び有効求人数が、21期連続して前年を下回っている。世界経済危機の影響による景気の低迷から運輸業、製造業、情報通信業関係からの求人数減少が見られる。
		職業安定所（職員）	・企業側の求人、採用意欲が低調なままである。また、解雇などの事業主都合による離職者が依然単発的に発生している。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・製造業派遣の禁止で、大手企業は海外に雇用を求め、国内は仕事がなくなる。今回の景気の上向きがあるとすれば、ジョブレス・リカバリーである。雇用情勢は、深刻である。
		職業安定所（職員）	・製造業、建設業をはじめとする管内の企業における人員整理、企業倒産等が徐々に増加しつつある。
	悪くなる	-	-

#### 4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計	良くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連	やや良くなる	商店街（代表者）	・希望的観測も入っているが、ニュースリリースに対するマスコミの反応が非常に良いことと、イベント告知に対する消費者の反応が良いことが理由である。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・再来年に控えたデジタルテレビ関連で、アンテナ工事を含め、昨年よりは売上の増加が見込まれる。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・エコポイント制度の効果も持続中であり、年末商戦の時期になるのでやや良くなる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・季節の変わり目にはインテリア需要があるということもあり、少し販売が伸びていく。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・総選挙が終わり、なんとなく将来の見通しが見えてきて、安心して買物ができるようになっている様子もあり、これから先はいくらか良くなる。
		百貨店（企画担当）	・9月の大型連休での盛り上がりもあり、消費者の行動に今までの閉そく感からやや開放された様子が見られるので、今後はやや良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・不景気とよく言われているが、当店に来店する客は年金暮らしが多いためか、旅行に行く、などと大変元気が良い。
		衣料品専門店（営業担当）	・近隣の駅ビルが11月に改装オープンし、人の流れが戻ると思われる。駅ビルはオープン後は若者向けになり、改装前に6店舗あったミセス向けの店舗は1店も出店しない。駅周辺でミセスからハイミセスをターゲットとするのは本店のみとなるので、期待している。
		家電量販店（経営者）	・引き続きエコポイント制度の効果と、待望のパソコンの新OS発売効果で売上の向上が期待される。
		家電量販店（店長）	・エコポイント等の政策の継続があり、市場は活性化される。
		家電量販店（統括）	・昨年12月は過去にないほどの不振であったため、前年比だけでみれば大きく伸長できる時期である。
		家電量販店（副店長）	・年末商戦シーズンで客の購買意欲が上がっていることが見込める。ただし、冬季賞与が全体的に上昇するのかが問題になってくる。
		乗用車販売店（総務担当）	・当面は、エコカー減税、補助金制度のおかげで、前年よりは良くなる。ただし、限られた車種の増販に工場への応援も余儀なくされ、本来の整備人員確保が手薄になり、収益面では伸び悩んでいる。
		その他小売〔ゲーム〕（統括）	・今月行われた東京ゲームショウで新しいゲームの発表、ハードの値下げが寄与し、年末商戦とも重なり、やや良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・今月が今までで最低だったので、2、3か月先は今よりは少し良くなる。
		一般レストラン（店長）	・今月はここ何年かで一番悪かったので、2～3か月先は今よりは少し良くなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・夏休み、9月の大型連休も終わり、予約が入ってきたので少しは良くなる。
		スナック（経営者）	・これから飲む機会が多くなるので、グループで来店してもらえればと期待している。
		旅行代理店（従業員）	・客との会話の中でも政権交代が話題になり、少しずつ経済が良くなり旅行も増えるのではという話が出ている。
		タクシー運転手	・10～11月はまだ低迷しているが、9月よりは良くなりそうである。年末、正月になれば乗車率が良くなり、いろいろな面で客の流れが出る。
ゴルフ練習場（従業員）	・今後ゴルフシーズンを迎え、来客数、売上共に伸びていく。		
パチンコ店（経営者）	・9月の大型連休は思ったより数字が良くなかった。今が良くないので、年末の手前の2～3か月後はそれよりは良くなる。		
住宅販売会社（従業員）	・例年、年末に近付くと物件が動き出すが、その他にも、9月の半期決算前に売主業者が大量に土地を購入して建売の準備をしているようである。政権が変わって融資が厳しくなるとみた業者が、今のうちに土地を仕入れているという情報も聞く。これらの仕入れ物件が市場に出れば景気がやや良くなる。		
変わらない	商店街（代表者）	・価格競争が激しく、競合が仕入れより安く売っているような状況では、なかなか太刀打ちできない。これから暮れに掛けて商店街でイベントを打っていかなければ、このままではなかなか人は来ないので、変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔文房具〕 (経営者)	・近所でシャッターが3軒くらい下りていたところが開いたので、客の流れが良くなっている。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕 (経営者)	・総選挙も終わり、変化もなく、活気がなくなっている。今後も厳しさが続きそうである。
		一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・売上が低迷しており、新商品が次々と出ているが、選んで仕入れているようで、しばらくは低迷が続く。
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・役所関係の仕事がすべてなくなっているため、売上が急激に上がることはない。事務用品はすべての産業で使われているが、下期については予算がないといった感じの客先が多く、先行きは不透明である。ただ、個人で使う手帳等の季節商材は出ると思うので、現在以上に悪くなることはない。
		百貨店(売場主任)	・政権交代等の景気回復に向けた要因はあるものの、消費者の保守的な購買行動はまだ続く。
		百貨店(売場主任)	・客が一番関心を持っているのは価格であり、前年より15~20%は落ち込む見込みである。
		百貨店(総務担当)	・前年に比べれば若干の持ち直しは考えられるが、暖冬の影響で衣料品を中心とした商品に苦戦が予想され、客の消費意欲もまだ戻ってくるとは予想できない。
		百貨店(広報担当)	・世の中がどの方向に向かうのが読むのが難しい状況である。そういった意味で世間はしばらく様子見で、景気は現状維持もしくはやや低調となる。
		百貨店(営業担当)	・婦人服、服飾雑貨の婦人関連をはじめ、紳士服、子供服のファッション関連、宝飾時計の高級雑貨、家庭用品の全商品群が相変わらず低迷している。
		百貨店(営業担当)	・今月の優待会販売での傾向を鑑み、購買点数の下落については一段落の傾向が見られるが、各社共に値下げ競争が激しいため、全体の売上には大きな影響がある。天候不順の影響で食料品の値上げが懸念され、その値上げ分について衣料品や嗜好品の買い控え等をして支出全体を抑える傾向もあるため、緩やかな下降傾向は続く。
		百貨店(販売促進担当)	・今後もきめ細かな施策を連続で打ち出し、顧客を呼び込む仕組みを作って、全員で一丸となって業績回復に臨む。
		百貨店(販売促進担当)	・欲しい物は価格にかかわらず購入する層がある一方で、政権交代による各種制度の変更に敏感なヤングファミリー層、新型インフルエンザなど生活防衛に関心を寄せるヤングミセス層など、ファッション購買をけん引するターゲットの動向が不明確である。
		百貨店(業務担当)	・米国の大手金融機関の破たんを受けて、昨年夏以降、流通業等の売上が前年をかなり下回るようになってきているが、1年が経過してその前年を更に下回る売上になっていくと非常に厳しい。政権が変わったり、環境が変わってきているのは事実だが、それに伴い流通がいつ上向くのかまだ計りかねている。あまり大きな変化はない。
		百貨店(営業企画担当)	・9月は若干の回復は見られたが引き続き回復して行く力強さは感じられない。
		スーパー(経営者)	・今月が悪いので変わらないと答えたが、段々悪くなっていくような感じもしている。客は余計なものを買わずになるべく節約しようという意識なので、いかに買ってもらうか、あの手この手で購入意欲を出してもらうやり方をしないとなかなか厳しい。
		スーパー(店長)	・政権交代でいろいろと期待するところもあるが、新型インフルエンザが流行っており、これから寒くなって更に流行すると客が外を出歩かず、人ごみがあるところに出掛けなくなるので、3か月後の景気は現在とあまり変わらない。
		スーパー(店長)	・将来への不安が根底にあり、なかなか景気浮揚は難しい。
		スーパー(統括)	・客の買物動向を見ていると、価格強調した商品には朝から行列を作っても買い求めようとするが、他の物は買わずにそのままレジに並んでおり、売上全体では目標を達成していない状況である。
		スーパー(統括)	・まだ先がよく見えない状況のため、客の多くは生活防衛意識が強く、必要な物以外は購入しない。この傾向はまだ続くので、大きな景気回復はない。
		スーパー(仕入担当)	・新型インフルエンザの流行により内食需要は高まると思われるが、無駄なものは買わない風潮のなかで、より安く購入しようという状況は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・駅前再開業事業は来年3月竣工と終わりに近づき、これ以上職人が増えることはなく、徐々に減っていく方向である。一方、再開業事業の一部が開店したことで、今まで来店していない客が来て、当商店街の集客力もこれからやや上向くのではないかと希望があるので、総じて変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・客は低単価商品へ流れ、プライベートブランド中心に低単価商品の開発も進み、厳しい来客数の中では単価の上昇、買上点数の増加も望めない。本部から多数の施策は用意されているが、大きな数値変化を期待出来るものでもない。
		コンビニ（店長）	・客単価が上がっている要因を考えたところ、今月はペット用の缶詰が好調であったということに気付いた。これがコンビニの特徴とフィットしているかどうかはこれからも注目していきたい。
		コンビニ（商品開発担当）	・様々な値引き商品を販売しているが、春先から動向が変わっていない。
		コンビニ（商品開発担当）	・デフレ基調も顕著となりつつあり、消費量が向上する兆しも見えないので変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・新型インフルエンザの流行により外出が控えられていること、失業率の上昇などから消費は停滞しており、洋服の単価もかなり下がっているため、将来の明るい兆しはまだ見えない。
		衣料品専門店（店長）	・気候などの要素に左右されやすい衣料品ではあるが、昨年並みの買上点数で推移していくと見込んでいる。
		乗用車販売店（経営者）	・整備は順調に入っている。あまり芳しくなかった販売も、エコカー減税の関係で今月に限っては順調に入っている。半分以上がエコカー減税関係の契約である。減税が継続されれば来年も良くなると思うが、廃止となれば悪くなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・来客数が増えていること、エコカー減税のおかげで受注も好調で、まだ少しの間は減税景気が続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・景気が底を打ったという話があるが、実質的にはこれから本当のリストラが始まる。取引している業者やメーカーでも減車や営業所の廃止、担当者の移動や早期退職等の噂が聞こえてくるので、今後2～3か月先も悪いまま変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・ある程度販売台数は増えているものの、コンパクトカーが中心で高額車の話自体がない。
		高級レストラン（支配人）	・ここ数か月、あまり状況は変わっておらず、主な売上の宴会受注状況はこの先2、3か月は回復していかない。また、食堂においても、特に夜の接待が減少したままである。
		旅行代理店（従業員）	・行楽シーズンに突入し、一番の繁忙期を迎えるも、通常であれば予約で一杯になる週末が、まだ十分飛行機やホテルの空きがある。
		旅行代理店（従業員）	・景気の二番底が懸念されるなかで、業務性渡航の取扱い比率が高い環境において、好材料が見当たらない。
		タクシー運転手	・10月からタクシー適正化・活性化法が施行され新規参入は抑えられそうだが、どれくらい減車ができるかが問題である。タクシー企業は皆他人事に考えていていざ我が社となると減らしたくない心境だと思う。そのようなことから、今年中は景気は一般社会も含めて悪いまま推移する。
		タクシー運転手	・とにかく今は夏休み等が終わり、冬休みに向かっての慎重な時期である。周り全体が様子を見ており、このまま変わらない状態が続く。
		タクシー（団体役員）	・企業や一般顧客等の交通費節約傾向は、今後も続くと思われるので厳しい状況に変わりはない。
		通信会社（営業担当）	・地上デジタル放送に対して、対策を前向きに検討している顧客と、助成金を期待し買い控えしている顧客との二極化傾向にある。後者の方が多いように感じる。
		通信会社（営業担当）	・多チャンネルサービスが伸び悩み、インターネットと電話サービスは堅調な状況がしばらく続く。
		通信会社（営業担当）	・下期もデジタルへの変更に伴う解約が予定されているため、厳しい状況が続く。
		通信会社（営業担当）	・先行きに不安を感じるなかで、できるだけ不要なものへの出費を抑える傾向にあり、厳しい状態は続く。
		通信会社（総務担当）	・政権交代があったが具体的な景気対策は見えていないため、一般消費者は様子見というところであるから、変わらない。
		通信会社（営業担当）	・年末に向けて地上デジタル放送需要が高まり加入増につながるが、同時に解約数も増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（職員）	・9月は非常に良かったが、これから秋の紅葉シーズンを迎えるため、このまま旅客の動きは変わらない。したがって、10、11月も同じように推移する。
		遊園地（職員）	・新規施設の導入効果や、夏休み、9月の大型連休における好天もあって、来園者数は前年を上回る状況ではあるが、飲食物販等での支出抑制傾向が続いており、消費単価の伸びはまだ厳しい。
		競馬場（職員）	・プラス要素が見当たらない。現在の公営競技は客の可処分所得により成り立っているところから、景気の向上が必須要件である。客の様子からもこれが感じ取れない。
		その他レジャー施設 [スポーツ施設]（支配人）	・新規入会キャンペーンを行なっているが、大きな反応が見られない。宴会やパーティーの予約においても目立った動きが無い。
		その他サービス[学習塾]（経営者）	・生徒数は減少しているものの、授業料を少し下げたおかげで売上の的には通常を保っている感じである。今後価格を変えたせいで悪くなるか良くなるか、まだよく分からない。
		設計事務所（所長）	・融資状況が変わらない今、この状態がかなり続く。
		設計事務所（職員）	・上昇の要素が見当たらない。発注案件自体は減少している傾向はなく、特に民間においては不景気という割には大規模案件計画が継続進行している。
		住宅販売会社（従業員）	・現在の集客の内容や件数が上がらない限り、まだまだ良くならない。
		その他住宅[住宅資材]（営業）	・アルミ関連で一番需要の多い住宅関連の値動きが停滞したままである。
	やや悪くなる	一般小売店[和菓子]（経営者）	・新型インフルエンザの影響で市内の小学校、中学校、高校と学級閉鎖や学校閉鎖が出ている。今後広がると消費は落ち込む。また、10月は季節の行事がないため、売上もあまり見込めない。
		一般小売店[医薬品]（経営者）	・今月は比較的良かったが、2～3か月この状態が続くとは思えないので、やや悪くなる。
		一般小売店[茶]（営業担当）	・勝ち組、負け組の競争の激化が、ますますはっきり表面化してきている。今後も、余力のない会社は勝ち組から引き離され、倒産する業者が出てきそうである。
		百貨店（総務担当）	・なかなか売上が伸びないなか、取引先等も資金繰りが苦しくなってきた様子である。この影響で周囲の景気が押し下げられ、先行きはやや悪くなる。
		百貨店（営業担当）	・多くの人は、冬のボーナスを期待して消費の計画を立てると思うが、現状の小売の厳しさを見ると、百貨店の商品は必要不可欠ではなく計画外になることが予想される。財布のひもはますます固くなる。希望がないという声も多い。
		百貨店（販売管理担当）	・国内消費の伸びはエコポイント制度対象の家電やエコカーにけん引されているものの、衣料品などの物価下落圧力がますます強まっている。購買単価が比較的高い12月は、賞与減額傾向の影響も受けて、客が消費にさらに慎重になるとわれ、前年比での売上減少幅は現在以上と予測される。
		スーパー（仕入担当）	・新型インフルエンザの大流行で外出、多くの人が集まる場所を避ける可能性が大きい。裸売り等の販売方法の制限も必要となってくる。
		コンビニ（経営者）	・ここ最近、来客数と売上の落ち込みが続いているので、先行きについても心配している。
		コンビニ（経営者）	・商品単価と客単価の低下が続いていく。
		衣料品専門店（経営者）	・当業界や周りの様子からも、今月は良くない。この先もいろいろ問題があり、良くなるような情報はない。
		家電量販店（店員）	・メーカーの発想力によってヒット商品が生まれにくい限り、小売業界は良くならない。
		家電量販店（営業統括）	・政局運営や、金融政策が不安定な状況であることから、企業の間接決算数字が確定するまで、消費が上向く材料は乏しい。一部の製造業では雇用の拡大が見られるが、全体では雇用不安を払しょくできていないので、結果的に不要不急の消費には資金が回らない状況がもうしばらくは続くと思込んでいる。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車業界は助成金の効果が薄れてきている。来店する客が減少し、急いでいる感じも無くなっている。
		乗用車販売店（渉外担当）	・減税の追い風も鈍化し、依然として雇用、賃金減、燃料価格値上がり等、不安定材料の解消見通しもない。
		乗用車販売店（店長）	・減税、特に補助金で追い風に乘ってきたが、補助金は果たしていつまで続くか不透明な状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・新型インフルエンザ流行のピークが10月といわれているので、それまでに他部門の立て直しをしないと大変なことになると考えている。仕掛ける販促が以前より当たらなくなっているため、販促ではなく接客術を身につけていく必要を感じている。
		その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・リニューアルをした当初は、比較的購入があったが、段々回遊する客だけが増え、あまり販売にはつながっていない。
		都市型ホテル（支配人）	・先々の予約状況も前年に比較して悪化している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・法人宴会は料金を下げて取り込みを図るので、集客人数は前年よりわずかの減少で推移しているが、売上は見込みとして15%程度減少と考えている。ただし、新型インフルエンザの影響が予測つかず、すでに1件、300名の決定宴会がキャンセルとなっている。また、新型インフルエンザの流行を気にして開催そのものを検討している宴席も数件あり、新型インフルエンザの影響は予測できない。宿泊の予約も同じことが言える。またレストランにおいても、少子化の影響が、家での食事が多くなり、七五三の予約も前年より2割少なく、このままだとクリスマスのレストラン売上やおせち料理の売上減少も心配である。
		旅行代理店（従業員）	・10月より燃油サーチャージの再設定や引上げがあり、旅行手控えが懸念される。一方、プラス要素としては円高が進み、海外旅行に行こうというマインドが伸びる可能性がある。
		通信会社（管理担当）	・販売単価の減少もあり、すぐに回復する要因はない。
		その他レジャー施設〔アミューズメント〕（店長）	・9月の大型連休前の競合店開業もあり、さらに近隣住民の分散が避けられない状況である。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・シーズンオフとなり、集客イベントの目玉がなくなることに加えて、新型インフルエンザの影響が懸念される。
		設計事務所（所長）	・今は耐震関係の仕事があるが、2～3か月先の仕事はほとんどあてがえない。
		住宅販売会社（従業員）	・新政権の施策によって住宅ローン減税が廃止になった場合、販売に多大な影響が予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・客の土地や建物を買いたいという動きは戻ってきたと、徐々にではあると思うが、2か月先に今月と同じように売れるものがあるかが心配である。
	悪くなる	商店街（代表者）	・不況感が深まっているというのを肌で感じている。現実に来客数、販売金額も非常に悪くなっている。早く政府が景気対策を打ち出してくれないことには、今後の回復は望めない。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・消費控えから客単価が落ち込んでおり、オーバーストアでもあるので、先行きは厳しい。
		スーパー（統括）	・リニューアル景気が息切れすると同時に、新型インフルエンザ蔓延の影響をもるに被ると予想されるので、悪くなる。
		スーパー（経営者）	・周りのスーパーの価格が非常に下がっている。小規模な小売店ではなし得ないような、仕入れ値よりも低い価格で販売しているものが多く、太刀打ちできない。完全なデフレ状態である。
		コンビニ（経営者）	・客単価の下落が止まらず、1人当たりの買上点数も減少、利益も大幅に減り始めており、改善の兆しが見えない。
		衣料品専門店（経営者）	・暖冬予測で冬物商材の動向が不安である。大きなキーアイテム、キーカラーが無く、受身の態勢で冬物商戦に向かうことになる。展示会発注商品は動かせないので厳しい商戦が予測される。
		タクシー運転手	・もうタクシーはだめである。いずれにしても先が全然見えない。
		ゴルフ場（従業員）	・冬のボーナス減の可能性、今後の昇給の見直しなどを考えると、希望が持てない。
		美容室（経営者）	・特に商店街の買い回りが非常に悪くなっている。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・契約者が減るばかりである。
		設計事務所（所長）	・民間の仕事がかなり無くなっているなか、その上、政権が変わり、予算見直しによって役所の仕事も一時ストップということから、今年度は相当厳しい状況になる。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（経営者）	・先月までは、現在が最悪で今後が良くなる可能性を持っていたが、政権が代わり、従来の景気対策をすべて中断してしまうとした場合、今後、1年くらいはまた最悪の景気に戻ってしまうと思われる。政府には即効性のある景気対策、中小企業の資金繰りを安定させるような対策を大至急お願いしたい。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・季節的な定期物受注が見込める。
		金属製品製造業（経営者）	・外需頼みであるため、底堅い景気回復はまだまだ先と感じている。
		精密機械器具製造業（経営者）	・ユーザー在庫が無くなって受注が入ると短納期で納入指示があるが、どこも人数を減らしているため急な増産ができなくなっているのが現状である。そのため、取引先をみても、回転在庫を持ち始めてきているところが数社ある。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・一部の現場においては良くなっているという声も聞くが、それでも半年～1年後にならないと回復とは言えない。まだまだ予断を許さない。
		金融業（審査担当）	・取引先の建設業では受注が激減し、売上高は大幅に減少していた。しかし、最近は延期されていた工事が徐々に始まってきており、大手ゼネコンからの受注が回復傾向にある。
		金融業（支店長）	・中小企業の資金繰り支援策が打ち出されており、返済条件緩和等の条件変更対応がスムーズになることが期待できる。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・久しぶりに新規契約が受託できそうである。スポット的ではあるが、新型インフルエンザ対策用のマスクの売上が見込める。
	その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・客先の動向から、やや良くなる。	
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・今月は少し上向いてきており、このまま上向けば良いが、しばらくはもみ合い状態が続く。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・8月は例年になく良かったが、9月になりいつもの秋口の回復がまだ出てきていない。
		化学工業（従業員）	・受注量が伸びず、生産量も伸びない。同業他社の安売りもあり、販売価格が下がってきていて、利益率が下がり厳しい状況が続く。
		金属製品製造業（経営者）	・半導体製造用消耗部材の動きが8か月ぶりに復活している。ただし、数量は以前の3割で、価格は更に厳しいため、設備を動かす費用も出ず、採算割れをしている。数量が戻るまでは我慢するしかない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・昨年の売上と比べて30%くらいをずっと推移している。明るくなる材料が全くなく、新規受注も全くない。来月、再来月もこの状態で行く。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・すぐには良くなることはないし、急に悪くなることもない。
輸送業（所長）		・通常年末にかけて忙しくなると思われるが、これといった決め手が無く判断しづらい。物流業界的には統廃合を含め、生き残りをかけた時期に入っていく。	
通信業（広報担当）	・中小企業の置かれている状況を考えると、この水準から更に受注が伸びるとは考え難い。		
通信業（総務担当）	・販売動向に政権交代の影響を感じられず、また、政策実行が景気とどのようにリンクしていくかの見極めがつかない。		
不動産業（総務担当）	・今後もテナントからの解約予告が続くそうである。なかには、違約金が生じるにもかかわらず解約に追い込まれるテナントも出てきそうで、業種によって、景況感が随分違う。		
広告代理店（従業員）	・売上増が見込めない。多少、減少傾向にある。		
経営コンサルタント	・建設業に対する融資が難航している。巨額のものではなく、日々の運転資金であるが、金融機関の判断が厳しいという相談を受けるようになってきている。建設業は、業種別の集合体としては大きく、小規模事業者が重層的に仕事に絡んでいるため、1社のつまずきが何社かに影響が及ぶ。市場規模に比べて多いといわれる日本の事業者数は、今後、世界の先進国並みに減少が進む可能性もある。地方の景況にも少なからぬ影響がある。政権交代で、その可能性が更に高まっている。		
経営コンサルタント	・金属材料を中小金属加工業に提供する企業に動きを聞いたが、少し受注が増加したりもしているが波があり、回復基調とは思えないとのことである。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
やや悪くなる		社会保険労務士	・良くなるという要因が見つからない。		
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・ここ数か月は大きな変化はないとみられる。		
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・顧客の工場稼働率改善等の兆しがまだ見えて来ず、この低迷状態がしばらく続く。		
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・案内やパンフレット、カレンダーなど印刷部数を昨年より減らす客先が目立ってきている。発注が無い以上、仕事はできないので、業績の回復は見込めない。		
		プラスチック製品製造業（経営者）	・弱電部品に底入れ感が若干見られるが、今まで利益をけん引してきた医療容器と化粧容器に回復の兆しが見られない。		
		建設業（営業担当）	・政権が代わり、公共工事は減る方向になると思われる。まだ影響は出ていないが、今後少しずつ影響が出てくる。		
		輸送業（経営者）	・良くなる材料が現在見当たらない。逆に燃料価格の上昇等があり、経費の増が見込まれる。		
		金融業（支店長）	・倒産件数又は自己破産の件数が増えている。また、実際に借入れの返済ができない所が多くなっており、条件変更、特に据え置き等をする所が多くなっている。現状売上が望めない以上、今後も景気は悪化していく。		
		不動産業（経営者）	・来客数も減り、同じ客が回っているような状況である。		
		悪くなる		出版・印刷・同関連産業（所長）	・印刷、広告業界は、大手広告代理店や大手印刷会社のような資金力のある企業のみ存続し、中小の企業は淘汰されてしまうのではないかと不安を感じる。何か突出した得意分野を伸ばそうにも、現状の状況では新規事業に踏み出す余裕もない。まだまだ、景気回復には時間を要する。
				プラスチック製品製造業（経営者）	・二番底があるのではないかと言われているが、このままの状況では良くなる要素がないので、むしろ悪くなる。
				電気機械器具製造業（経営者）	・全般的な景気の状態から、現在の受注量が増えるということは考えられない。恐らく、景気が上向くのは来春に入ってからである。とりあえずは従来の整備点検工事を追いかけていくほかに道はない。
建設業（経理担当）	・政権が代わり、建設業界にとってはマイナスの政策も想定されている。また、得意先の製造業においても直接的な景気対策があげられていないので、設備投資の話が当社に回ってくるようなことも望めない。				
輸送業（経営者）	・仕事はどんどん減り、運賃の値下げの要求は強くなる一方で、これから先、全く明るい見通しはない。				
輸送業（経営者）	・セーフティネット融資の元本の返済がそろそろ始まると思うので、11月あたりから、また中小企業等々の倒産が増えて来る。したがって景気は更に落ち込んで行く。				
輸送業（総務担当）	・荷主の中間決算の見込み数値により、10月から運賃、作業賃の値下げを要請されている。原油価格が上昇して来ているので、燃料価格は当然値上がりする。これから年末にかけては仕事量が少なく、低運賃、経費の増加が予想される。				
広告代理店（経営者）	・今の、景気向上を思わせる要素が無い。例えば、人も車も動きが減っている。激安スーパーがやたらに混み始めている。高額の人気チケットが容易に買ってしまうなど、周囲から聞こえてくる話もほとんどがろくでもない話である。				
雇用関連	良くなる				
		やや良くなる			
	やや良くなる		人材派遣会社（業務担当）	・年末までは緩やかな上昇が続く。ただし、例年のようないわゆる「繁忙期、書き入れ時」といったような年末期独特の激しい盛り上がりはない。1人勝ちの企業の仕事を専属的にもらえているような会社はそれにぶら下がって景気が良いのかもしれないが、大多数の企業が微増の域を出ない。	
			人材派遣会社（支店長）	・年末調整業務の依頼が来ており、今後、2、3か月先のニーズの増加が見込まれる。	
			求人情報誌製作会社（営業担当）	・商材によっては、前年比で伸びているものも出つつある。	
			求人情報誌製作会社（編集担当）	・若干であるが今月は求人数が増加している。正社員の求人はまだまだ少なく、パート、アルバイトなどが中心で、しかも採用者数は少人数である。しかし、中堅及び小売店の販売スタッフ、建築関連の営業など、これまで影を潜めていた業種の求人が出始めている。	
	変わらない		人材派遣会社（社員）	・製造業での販売回復、在庫調整進展等、明るい話題が一部あるものの、一時的なものか継続的なものか不透明であり、楽観視はできない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		人材派遣会社（営業担当）	・現状の求人数、求職者数、各企業動向からみても、景気回復の兆しは考え難い。		
		人材派遣会社（支店長）	・企業からの依頼数が少ない状態が続きそうである。		
		求人情報誌製作会社（編集者）	・採用市場は、雇用喚起の公的刺激策がないと民間企業の努力だけでは回復しない。現状を維持するのに精一杯という感じが続く。		
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・アルバイト、パートの募集にあたっては、「欠員補充による採用」もしくは「採用すら行わない」の2つのケースが圧倒的に多い。新たな追加採用に動く企業が少なく、依然として採用活動を積極的に行う企業が増えてくる兆しが見えてこない。		
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・10～11月でもう少し良くなる兆しがあるということだが、12月は例年落ち込むので、その辺を考慮するとそれほどでもない。		
		職業安定所（職員）	・雇用調整に関する助成金の申請事業主の多くは中小零細の製造業であり、今後在庫がはけることによって幾分か受注を期待しているが、なかなかその動きが表れない。		
		職業安定所（職員）	・求人数の増加が見込めず、有効求人倍率も過去最低を更新しており、完全失業率が更に上昇する。中小企業は雇用調整を継続しており、全体の雇用情勢の回復はいまだ見込めない。		
		職業安定所（職員）	・求人数の動きは増える状態ではないので、今後も就職者が増えることは考えられない。		
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金の申請が止まらず、求人が増加傾向に転じるとは今のところ予想しがたい。		
		民間職業紹介機関（経営者）	・メーカーの場合、生産もまだ在庫調整が終わったという感じで、将来に非常に大きな不安を持っている。急激な生産増も今もやっていないし、今の量の中でやっていこうということで、人の増加ということは考えていないところが多いようである。		
		民間職業紹介機関（職員）	・完全失業率もまだまだ下降する可能性もあり、今後の景況感が見えない中においては、雇用の回復は今期は厳しい。		
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・全く景気の良い話は無く、昨年は今ごろ届く求人票も現在届かず、今年度は採用を見送る企業も多い。		
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・企業側の新規採用に対する状況は慎重で、新規募集や募集人数の増加をする企業は少数である。		
		やや悪くなる		人材派遣会社（社員）	・円高も一向に改善されず、燃料費も徐々に上がっているということと、あまり期待できないという意見が多い。
				職業安定所（職員）	・管内の居住人口は少ないが、雇用保険基本手当の受給者実人員は過去最高の平成13年度平均2,057人（13年7月2,258人）を平成21年の4～8月平均2,272人（21年8月2,434人）と既に超えており、今後も増加が予想される。
職業安定所（職員）	・新規学卒求人数が昨年の約半数となっている、非常に厳しい状況である。また、学卒求人の取消しが出始めている。				
悪くなる		人材派遣会社（社員）	・雇用形態の転換を迫られているため、新規受注が出にくい。		
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・当社も赤字計上が決定、人員整理、いわゆるリストラが始まっている。		
		民間職業紹介機関（経営者）	・雇用にプラスになる要素が見当たらない。ワークシェアリング等、構造的な雇用プランが必要になるかもしれない。		
		学校〔専門学校〕（教務担当）	・9月に入って、採用凍結、見合わせの企業が続出しており、今後もこの傾向が続く。		

#### 5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	住宅販売会社（従業員）	・大手自動車メーカーが期間従業員の採用を始めるなどの明るいニュースが増えてきている。当業界でも、若干ではあるが、購買意欲のある人の来場が増えてきている。今後は季節的にも来場しやすくなるため、今後は良くなる。
	やや良くなる	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・客はお金を使わない状況から、使い先や使い方を選んで使うようになってきており、今後はお金を使う動きが出ている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・伊勢神宮ではこの秋に宇治橋渡初式などがあり、にぎわう。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		百貨店（企画担当）	・消費意欲が劇的に回復するとは感じられないが、セールや催事といった仕掛けに対して、若干なりとも反応は現れるようになってきている。セールや自社カード優待といった価格面の仕掛けは必要であるが、何とか前年並みの売上を確保できそうな流れになってきている。
		百貨店（営業企画・販売促進担当）	・前年は10月以降、米国の大手金融機関の破たんに伴う不況があったが、それが一巡し、落ち込み感はやや弱まる。
		百貨店（販売担当）	・厳しい状況ながらも、客の新作に対する意識はかなり高まっている。低単価商品には、動きの良いものも出てきている。平場のブランドは、売場面積が減っているため前年並みの確保は難しいと思われるが、売場全体では新規ブランドの好調も手伝って、まずまずの結果を見込める。
		家電量販店（店員）	・前年は、米国の大手金融機関の破たん以降年末に掛けて、経済状況が悪化して買い控えが起こり、家電販売も悪い状況が続いていた。今年は、エコポイント制度や政権交代もあり、良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・10月初めに、当社の主力取扱車両がやっとエコカー減税、補助金の対象に加わるため、販売のかさ上げがある。例年、年末に向けて増販月に入るため、市場も少しは盛り上がる。
		通信会社（サービス担当）	・提供エリアの拡大に伴って、拡大エリアでの新規加入者が増える。
		商店街（代表者）	・相変わらず客1人当たりの客単価は伸びてこないため、今後も売上がプラスに転じることは難しい。
		商店街（代表者）	・9月の大型連休で販売量は増えたが、土日の売上は依然として例年と変わらないため、今後も良くなることまでは望めない。
		商店街（代表者）	・省エネ商品、エコポイント商品の動きはまずまずであるものの、単価の下落が激しいため、今後景気が良くなってくる雰囲気は全くない。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	・地場産業の廃業が進むなど、地域は暗い話題ばかりである。エコカーや省エネ家電は売れているかもしれないが、景気が底を打った実感はなく、まだ落ち込む可能性がある。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・客の話によると、新政権に期待しているが、具体的に良くなるまでには時間が掛かるとのことで、まだまだ慎重である。景気が上向くまでには、まだまだ時間が掛かる。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・外商の受注量も低迷が続いており、客からは景気回復の話題はほとんど聞かれず、先行き不安をこぼされることが多い。セールが終わると次のセールと手を変え品を変え努力しているが、来客数は変わらず、客単価は低下した状態が続いている。今後も厳しい状態が続く。
		一般小売店〔惣菜〕（店長）	・比較的高価な商品を扱う百貨店では、客の経済状況が売上に直結する。厳しい状況はまだ続く。
		百貨店（企画担当）	・今後、政策によって内需拡大が推進されるであろうが、雇用不安を始め社会不安が解消に向かうには時間が掛かるため、消費に対する好影響は当面期待しにくい。
		百貨店（企画担当）	・前年10月以降の景気後退から1年経ち、10月以降の売上は、これまでのように前年を大きく下回ることはなくなると思われる。ただし、客単価、商品単価の低下傾向は急には変わらない。
		百貨店（経理担当）	・前年実績を上回る商品も出てきている。2～3か月前の落ち込みに比べると、全体的に安定してきており、今後もこの傾向は続く。
		百貨店（売場主任）	・様々なイベントを仕掛けても、買いたい物だけを購入する買物スタイルは依然として変わらない。相変わらず財布のひもは固く、今後もこの傾向は続く。
		百貨店（販売担当）	・客は以前と比べて、購買する際に商品を慎重に吟味する傾向にあるが、今後はそれが常態化する。それに対して、百貨店では新しいビジネスモデルや施策が確立していないため、客のニーズの変化に対応できない状況が今後も続く。
		スーパー（店長）	・来客数の増加は、企業の体力を削りながら実施している特売強化によるところが大きい。今後景気が良くなる方向には向いていない。
		スーパー（店長）	・単価の低下は落ちついてきている。ただし、買上点数の動きは若干不鮮明である。また、新政権による今後の政策に期待はしているものの、大きな期待は持っていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・夏物衣料の処分もきちんとできていないなか、今後は秋物衣料の早めの処分が続き、単価の低迷、利益の圧迫が続く。競合店による安売りも、単価の回復を妨げる。今後もこの傾向は続く。
		スーパー（店員）	・今後良くなるような売れ方や雰囲気にはなっていないため、今後も横ばいが続く。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数の減少は収まり底を打ったが、客単価の下落傾向は続いており、売上は当面、厳しい状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・必要以外の物は購入しない傾向は、今後も継続する。
		コンビニ（エリア担当）	・いったん固くなった財布のひもは、景気が多少回復する程度では、なかなか緩まない。
		コンビニ（店長）	・平日、週末の来客数が、前年同月比で減少傾向にある。これは今まであまり見られなかったことで、年末までは良ならない。
		家電量販店（店員）	・パソコンの新OSの発売を控えているが、盛り上がりには欠けている。
		家電量販店（店員）	・地場産業の製造業は以前と比べて良くなっていると聞いており、全体的には回復していくと思うが、個人消費はまだ変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・客の購入予算は、一段と低下している。将来不安が増大している様子であり、これはすぐには改善しそうもない。
		乗用車販売店（従業員）	・前年9月と比べると販売台数は約3割減少しているが、補助金がある間は販売増を見込める。
		乗用車販売店（従業員）	・補助金制度の効果は出ているが、補助金制度が今後どうなるか分からないため、今後は予想しにくい。
		乗用車販売店（従業員）	・9月は半期決算もあり、それを狙った客でにぎわったが、10月以降は不透明である。また、高速道路料金の無料化や暫定税率の廃止などの話が客から出始めており、ETCはほとんど売れなくなってきている。また、例年年末までは販売台数が減る傾向にあるが、それを補うはずである工場への在庫量は前年を下回ってきているため、今後も厳しい状況が続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約客数は増加している。ただし、一般の来客数は落ち込んだままであり、全体として軟調が続く。
		一般レストラン（スタッフ）	・今後は、流行し始めている新型インフルエンザの動向が懸念される。
		一般レストラン（スタッフ）	・客単価は変わらず、すぐに景気が良くなる様子はない。
		一般レストラン（従業員）	・新政権の発足による景気の活性化を期待しているが、末端の飲食店にまで効果が現れるのはもう少し先である。
		スナック（経営者）	・客からは、年末のボーナスも期待できないという話が聞かれる。経営統合やリストなど明るい話題がないため、今後も客の財布のひもは相変わらず固いままである。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数は現状と変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・総選挙が終わり様々な期待が膨らんでいるが、給与が減少しているなか、財布のひもは依然として固い。企業の経費節減も当分続く。
		通信会社（企画担当）	・自動車業界が下げ止まっている感はあるものの、好転の兆しまでは至っていない。
		テーマパーク（職員）	・客単価は月によって変動があるものの、今月は若干ながら前年同月を上回っている。今後も現状並みが続く。
		ゴルフ場（企画担当）	・今後ゴルフ業界も徐々に厳しくなると思うが、11～12月中旬に掛けてはゴルフシーズンであり、例年並みの天候ならば、来場者数が大きく変わることはない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・街中では、空き物件、空き地が非常に増えている。事業所、店舗等の数が減り続けており、景気が良くなる気配は全く感じられない。また、10月から電気料金値上げ等もあり、個人、企業の負担増となるため、景気は更に低迷する。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・客は自己防衛のため付き合いの幅を狭くしており、財布のひもは固い。自分が欲しい商品は買っても、贈答品は家計の交際費であり、贈答品は今後も厳しい。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・1人当たりの買上は急激に減少してきており、このまま12月ごろまで行く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売担当）	・冬のボーナス支給額が増額するとは思えず、消費が冷え込むことは目に見えている。特に宝飾業界は、クリスマス商戦もますます厳しくなる。
		百貨店（外商担当）	・全体的な傾向を見ると、一番悪い時と比べると良くなる方向にあるが、新型インフルエンザの流行が懸念される。来客数が減少したり、売上に影響するのではないかと。
		スーパー（経営者）	・冬のボーナスは減ると思われるため、所得は伸びない。中小企業も相変わらず良くなく、経費削減に限界まで努力して、下げ幅をできるだけ小さくしている現状にある。そのため、3か月先の景気も悪くなる。
		スーパー（経営者）	・自動車製造業は多少良くなってきていると聞かすが、地場の輸送用機械器具製造業は全く悪く、毎週金曜日から3連休になっている状況である。そのため、今後も買い控えが続く。
		コンビニ（経営者）	・消費者の購買意欲はいつ良くなるのか、どこまで悪くなるのか、楽観的に見ても全く見当がつかない。
		乗用車販売店（経営者）	・今後は、新型車効果が薄れてくる。また年末が近づくにつれ、年内登録関係の交渉が発生する。11月までの商談が重要である。
		住関連専門店（営業担当）	・マンション、工業物件共に、新築に対する購買意欲が落ちている。また、リニューアル物件も、価格が非常に厳しくなっており、今後は厳しくなる。
		観光型ホテル（経営者）	・9、10月の宿泊数は前年を12～13%上回っているが、11月は25%ほど、12月も5%ほど悪くなっている。新型インフルエンザの流行を懸念しているためか、出控えの兆しがあり、良くなるどころかむしろ悪くなる。
		都市型ホテル（経営者）	・客の動きや宿泊業界の単価を見ていると、回復するとは思えない。まだしばらくは現状が続く。
		都市型ホテル（営業担当）	・自動車製造業を中心に来年度以降の状況が不透明であるため、消費の自粛ムードが広がっている。雇用も確保されていないため、個人需要も低迷しそうだ。
		旅行代理店（経営者）	・原油高と円高傾向により、業界を取り巻く環境は悪化する。
		旅行代理店（従業員）	・中部国際空港では国際線を含めて減便が見込まれている。旅行客は中部地区からの出発が非常に厳しくなることに伴い、海外旅行を含めて需要は伸びていかない。
		パチンコ店（経営者）	・サービス業は景気に一番敏感であるが、現在の景気は、踊り場から下に向かいそうな雰囲気がある。
		理美容室（経営者）	・客の話では、仕事は増え始めているが、給与には反映されていないと聞く。そのため、景気はまだ少し悪くなる。
		設計事務所（経営者）	・企業案件の数がやや減少しており、今後は悪くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅を新築するための土地購入が減ってきているため、当面は増改築等のリフォームしかない。
		住宅販売会社（企画担当）	・新政権の新しい予算等の方針が明確になるまでの間は、様子見が続くため、消費は上向かない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・元請企業の動きが止まっている。見積依頼等の引き合いもほとんどない。
	悪くなる	一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	・新型インフルエンザの流行による影響が懸念される。流行し始めると人出はなくなるため、百貨店等の量販店では大打撃を受ける。
		スーパー（経営者）	・底打ちと思っていたが、9月中旬以降は特に、消費者の購買意欲が失せている動向にあるため、今後は悪くなる。
		コンビニ（企画担当）	・8月が底で、9月以降は緩やかに回復に向かうと思われたが、売上が弱含みであることに加えて、小売業では2010年2月期の業績の下方修正が目立っている。
		コンビニ（店長）	・来客数、1人当たりの買上単価、買上個数、売上などどの指標を見ても、良くなる傾向は全くない。今後はむしろ悪くなる。
		コンビニ（商品開発担当）	・今後は、今までの貯蓄がなくなったり、長期化する不景気に対応して消費を抑えたりする傾向が強まる。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・相変わらず、消費者の買い控えは続いている。客単価、商品単価共に低下傾向が続いており、早期の回復は見込めない。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・繁華街でも新型インフルエンザが流行し始めており、今月後半からは外出にはマスクが必須となる。そのため、小売店では売上の悪化を強いられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（販売担当）	・企業と各種団体の利用が全く戻ってこない。11月以降、年末年始の受注もさっぱりである。企業、各種団体の宿泊宴会、一般宴会のマイナス分を補うことはできないが、今は個人宿泊の稼働率を上げることに重点を置いている。
		都市型ホテル（支配人）	・冬のボーナスが見込めないため、個人客の売上が見込めない。また、新型インフルエンザの流行懸念により、年末に向けての忘年会、新年会の受注が弱くなっている。
		住宅販売会社（経営者）	・新政権に変わって以降、様子見が続いており、買い控えの傾向が強くなっている。賃貸でもそのような傾向があり、この傾向は今後も続く。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当） 一般機械器具製造業（営業担当） 輸送用機械器具製造業（統括） 輸送用機械器具製造業（総務経理担当） 輸送業（経営者）	・非常に良くなるはならないが、今後は今の悪い状況は脱して、少しは良くなると思う。 ・自動車製造業では、製品に関しても生産設備に関しても在庫調整が終わりに近づき、増産や設備更新の具体的な話が増えてきている。ただし、厳しい価格要求は変わらず、受注できて利益がほとんど出ない価格での競争を強いられている。 ・主力取引先からの受注増加が、引き続き見込める。 ・海外での在庫調整が一巡し、取引先からの内示数は増えてくる。ただし、前年のピーク時から比較すると、まだ7～8割である。 ・これまでの景気対策による需要の先食い懸念から、客の投資に対する姿勢は慎重である。ただし、当面の需要への対応のための物流投資は増加する。
	変わらない	食料品製造業（企画担当） 化学工業（企画担当） 窯業・土石製品製造業（社員） 窯業・土石製品製造業（経営者） 一般機械器具製造業（経理担当） 電気機械器具製造業（経営者） 電気機械器具製造業（営業担当） 電気機械器具製造業（営業担当） 輸送用機械器具製造業（財務担当） 輸送業（従業員） 輸送業（エリア担当） 輸送業（エリア担当） 通信業（営業担当） 金融業（従業員） 広告代理店（制作担当）	・原材料価格は少し上昇傾向にあるが、商品の販売価格は値下がり傾向にあるため、今後は収益を圧迫する。また、販売価格が低下しても販売数量は伸びていないため、個人消費は低迷しており、今後もこの傾向は続く。 ・米国経済が回復しない限り、実質的な景気回復には至らない。下げ止まっているとの見方もあるが、全体が下げ止まるにはまだ時間が掛かる。 ・今後に向けた明るい話題がない。太陽電池関係に活路を見出そうと開発している企業は多いが、金属シリコンの値段が低下したままであるため、前年のような活気はない。 ・窯業界の景気は住宅着工件数と密接な関係にあるが、今年5～7月の住宅着工件数は2～4月の住宅着工件数とほとんど変わらない。 ・現状は当面継続する。更なるコスト削減、生産効率向上等を図り、業績悪化に歯止めを掛ける必要がある。 ・車載電子部品やマイコンなど自動車向け以外には、期待を持てる製品が全く見当たらない。この状態は、来年3月まで続く。 ・今後に影響を与えるような大きな案件は予定されていない。 ・急激な円高によって、輸出産業はかなりのダメージを受けると予想される。 ・減税効果によって国内受注はそれなりに見込めるものの、米国経済の先行きが不透明であるため、一進一退の状況が続く。 ・株価は回復傾向にあるものの、原油価格も上昇していることが懸念される。 ・自動車関連の設備投資の仕事が全くない状況にあるため、輸送の仕事も動かない。それに加えて、橋梁等の設備投資関連も足踏み状態にある。 ・9月は上半期の終了月であり、例年ならば荷物の動きが少しは増えるが、今年は9月末を迎えてもそのような動きはない。9月の大型連休があったので、1日当たりの荷物量が多少動く日もあったが、月間を通じて見ると1日の荷物量は変わっていない。今後もこの傾向は続く。 ・客は投資の抑制を続けており、しばらく現状が続く。 ・大手企業では景気が若干上向きになってきている動きもあるが、設備投資には動きが見られない。また、下請企業では、全体的に先行きが明るいとは言えない。 ・年末に向けて企画物の提案をしているが、広告費削減の影響が続いており、厳しい状況は今後も継続する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	行政書士	・客との会話では、今後上向くという話は聞かれない。
		会計事務所（社会保険労務士）	・業績が回復する要因が見当たらない。赤字決算になる企業が増えている。
		鉄鋼業（経営者）	・好調といわれている自動車関連産業でも、11月以降の内示では10月までと比べて1～2割減である。今年7月以前の水準に戻る可能性もある。
		金属製品製造業（従業員）	・原材料の値上げ要請がある一方で、工事が増えるなどの仕事量の回復見込みはない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・個人収入が減少しているなか、購買意欲は下降傾向にある。需要が伸びる要素がないため、新規の話も前向きではない。
		建設業（営業担当）	・仕事量が減っているなか、新しい仕事や取引先に出会っていない。仕事の考え方や内容、営業、会社の方針が変わっていかない限り、今後も厳しい。
		経営コンサルタント	・正社員雇用が少なく、契約社員がそれより悪い雇用形態が主流という状況は変わっていないため、住宅を購入する動きは非常に鈍い。それによって景気の幅広い回復も見込めない。この負のスパイラルは今後も続く。
	悪くなる	会計事務所（職員）	・消費財の価格は確かに安くなっているが、消費者は必要以上には購入しないため、製造業でも売上の減少は避けられない。
		その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・今月は一時的に仕事が増えたが、今後も増えるとは思えない。また下降線をたどる。
		金属製品製造業（経営者）	・市場の縮小が続いているため、価格競争も一層激しくなっている。
		不動産業（経営者）	・今後は、企業の破たんが進む。
		広告代理店（経営者）	・大手企業が無理な受注を決定するようになってきているため、今後中小零細企業はその影響を受け、受注は減少する。
		雇用関連	良くなる
やや良くなる	人材派遣会社（社員）	人材派遣会社（社員）	・来月以降の予約状況は、週末を中心に例年並みとなっている。ただし、求人数は増えるが、1～2割は削減される。
		人材派遣会社（支店長）	・今後、自治体の緊急雇用対策案件が増加していく。また、自動車メーカーの生産計画の上方修正によって、関連会社からの求人も出始めている。以上によって、回復基調は続く。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・給仕の動きは、ここ半年以上、全くなくなっている。この状況は、来年の3月ごろまで続く。
		人材派遣会社（支店長）	・求人数は、今年度いっぱい横ばいである。今後回復するとしても、来年度からである。人員整理を行った企業では、一部人材の不足感があるが、新規採用は引き続き凍結するという企業が多く、新規採用の開始は来年の春以降になる。
	人材派遣会社（経営企画）	・研究開発の需要回復は想定していたより遅いため、3か月後はまだ確かな需要回復が見込めない。	
	アウトソーシング企業（エリア担当）	・ハイブリッド車の生産増の恩恵を受けるのは年内までであり、来年の見通しは不明瞭である。	
	求人情報誌製作会社（企画担当）	・現在は、これまで停止していた案件が動き始めたという感じであり、必要以上のマイナス分の求人が出されている状態である。今後良くなるという力強さはない。	
	求人情報誌製作会社（編集担当）	・企業の求人活動に、改善の兆しはみられない。	
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・自動車メーカーから期間工の募集が開始されたが、まだ景気が上向くと感じるほどではない。	
	職業安定所（職員）	・景気の不透明感から、企業からの求人はまだ出てこない。新規求職者数も、横ばいが若干増加している。	
	職業安定所（職員）	・輸送用機械器具製造業の一部では生産が増加しているものの、業種全体では横ばいが続いている。雇用の維持が精一杯の企業もある。今後もこの状況が続く。	
	民間職業紹介機関（職員）	・まだ全体的に良くなってはきておらず、良くなっている業種は限られている。全体的に良くなるのは、まだ当分先である。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・企業の求人意欲は、これ以上悪くはならないが、良くなる様子もない。	
	やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・2011年4月入社の新卒募集に対する企業参加の出足は極めて鈍く、前年同期比60%程度で推移している。景気の先行き見通しが立たないためか、新卒の採用計画は大幅に遅れている。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金の申請は減少傾向になく、新規申請の相談に来所される事業所がまだに出ている。休業手当を払いきれずに従業員の雇用調整をするケースが目立ち始めており、今後は一段と厳しくなる。
	悪くなる	職業安定所（職員）	・零細企業の経営環境は、事業主の蓄え等を食いつぶす状況にあり、今後も企業の整理が進む。

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕 （店長）	・客の購買動向の推移から景気は今春が底であろう。2～3か月先にはイベント等を打ちながら集客を図りたいと計画を立てている。
		一般小売店〔鮮魚〕 （従業員）	・9月の大型連休の人出でも分かるが、消費者は儉約にしびれをきらしているようだ。年末にかけて上半期とは違う動きになる、という見方をする取引先がかなり増えている。
		家電量販店（経営者）	・店頭での即決が多く見受けられ、以前のような買い回りは少なくなっている。
		乗用車販売店（経営者）	・新政権になり景気の見通しについて過敏な動きが薄らいでくる。自動車はエコカー中心から対極的な高級車に対する富裕層からの需要がでてくる。
		通信会社（営業担当）	・8月のお盆休みや9月の大型連休の影響でしばらくは消費活動も活発にならないが、年末に向けて徐々に消費活動は活発になり、やや良くなっていく。
	変わらない	商店街（代表者）	・新型インフルエンザの流行も噂され、引き続き外出を抑える傾向があると懸念される。消費者の財布のひもは相変わらず固く、無駄使いは一切しない傾向が強い。
		百貨店（営業担当）	・客の購買の決め手は、汎用性、利便性、機能性などであり、付加価値のある商材については吟味をして購入する。百貨店では、これからのファッショントレンドのブーツやコートなどの動きには明るい兆しが全く見えない。前年実績を確保するのも難しい状況にある。
		百貨店（営業担当）	・客の買い物の方が厳しいことに合わせて、販売店でもセールの常設や商品単価の引下げなどにより対応しているものの、ますます総売上が上がらない悪循環は今後も続く。
		スーパー（店長）	・景気の停滞感と消費の不透明感からの脱却要因が見当たらない。政局変化も混沌としており期待感のみである。
		スーパー（総務担当）	・生活防衛のため出費を抑制する傾向は今後も続く。
		衣料品専門店（総括）	・秋から冬に向かい防寒衣料等の高単価の商品が動き出す時期になるが、商品の価格が低いところで推移しているので、ここしばらくは変わらない。
		乗用車販売店（総務担当）	・今後2～3か月は、自動車購入に対する政府補助金が継続使用できると予測できるため、状況は維持されるとみている。
		乗用車販売店（経理担当）	・失業率悪化、天候不順、新型インフルエンザ等の影響によって個人消費の冷え込みが懸念される状況が続いている。
		自動車備品販売店（従業員）	・ETC需要も終了し、それに代替する商品も無く先行きは不透明な状況である。
		高級レストラン（スタッフ）	・秋の行楽シーズンだが、週末の団体旅行による集客に見切りをつけ、個人の慶弔マーケットの受注を積極的に行っている。また、法人利用の回復も早期には見込めないためシルバーマーケットを開拓中だが実績はまだまだ乏しい。
		一般レストラン（スタッフ）	・本格化する新型インフルエンザの流行による外出の自粛、政権交代による政策の変更で公共工事の見直し、地球温暖化ガス25%削減等、一国民とすれば期待もしているが、企業の経費負担増、消費税アップ等先行きが見えないため、当面節約ムードは継続する。
		観光型旅館（経営者）	・景気低迷や新型インフルエンザなどで団体の集客が悪く、これからの観光シーズンや忘年会などの集客にも影響が出てくる。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は10月が前年比80%台、11月以降は同70%台で推移している。姉妹館は10月同92%、11月は同74%となっているが12月以降は同90%以上となっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の受注状況が低迷している。前年は米国の大手金融機関の破たんの影響があったこともあり、今年は前年を上回る見込みだったが、予約は伸び悩んでいる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約は今一歩である。
		旅行代理店（従業員）	・少し明るさが見えるが、新型インフルエンザ次第と考えている。
		旅行代理店（従業員）	・法人利益及び個人所得の先行き不透明感から、レジャー需要に活気が戻るのは、来春以降になると予想している。
		タクシー運転手	・タクシー適正化・活性化法の10月1日施行前に、運賃値下げの駆け込み申請があり競争が激化し、客の奪い合いが予想されるため厳しさに変化はない。
		通信会社（社員）	・新サービス等の予定がない。
		通信会社（役員）	・アナログテレビからデジタルテレビへの買換えは引き続き進展すると予想されるものの、従来のような積極的な買換えと、それに伴うデジタル契約の増加傾向は鈍化すると見られる。
		その他レジャー施設（職員）	・売上高は横ばい傾向で、早急な景気回復が期待できない。
		美容室（経営者）	・まだまだ消費にお金を使う気持ちになれない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅は高額な買物となるため、雇用問題をまず解消しないと景気が良くなる。
住宅販売会社（従業員）	・客の動きにあまり変動がないものの一定程度動いている。急激に変化するような要因も無いので現在の状況が当面続くように思われる。しかし、単価が厳しくなっているので販売額は若干減少していく。		
やや悪くなる		百貨店（売場主任）	・未だ倒産件数に落ち着きが見られず、マーケットをリードする客層の活気に欠ける。
		スーパー（営業担当）	・客の買物の様子は、低単価商品の組み合わせ、たとえば「もやしと豚肉」から「もやしとにら」に変化している。より安く調理ができる買い方になっている。
		コンビニ（経営者）	・景気に明るさが見えないため、価格の安い量販店に行く傾向や家で食事をする傾向などに変化はない。こういった傾向が続くと予想されるため、消費者がコンビニエンスストアに足を向けるにはもう少し先のことである。
		コンビニ（経営者）	・コンビニ業界における各チェーンの「セール」と称する安売り競争はますます激しくなっており、客単価の落ち込みはまだまだ続く。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・基本的な産業構造や生産現場の雇用状況は好転していない。さらに新型インフルエンザ需要のような一過性の需要がなくなり、現在よりは悪くなる。
		スナック（経営者）	・総選挙後の様子見といった気配も感ずるが、製造関連で少し戻ったといっても例年の50%程度しかないとの話を耳にしたり、中小企業、大企業での人員削減もあったり、ますます厳しさが増してくる。
		通信会社（営業担当）	・客の新方式端末商品への関心度は低いと思われるため、旧方式端末商品が残っている9月、10月がピークと思われる。
		競輪場（職員）	・来客数や販売量、購入単価において下降傾向が見られる。
		住宅販売会社（従業員）	・太陽光発電など環境にやさしい家造りはコストアップにもつながる。補助金制度もあるが消費者にも一部負担を強いるものであり、理解はしてもらえてもなかなか思うように伸展しない。受注減の中であって競争も激化し、業績悪化が予想される。
悪くなる		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・景気が前年の10月から悪くなり、現状では底を打ったと言われているが、身の回りにまで拡大していない。政権交代によりいろいろな予算が見直されたり、縮小されたりし、景気は縮小方向に進んでいる。
		コンビニ（経営者）	・年末にかけ同一商圈内に最大手のコンビニエンスストアの出店が予定されており、ますます競争が激しくなり苦戦しそうである。
		コンビニ（店長）	・前年はタスポ効果もあり、大幅に売上が伸びており、その反動もあって今年はまだに見る苦戦が予想される。
		住関連専門店（店長）	・来客数、客単価を見ても上がっていく様子がなく、良くなる傾向が見られない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（職員）	・今後3か月間の予約状況を見ると、団体、グループ、個人客いずれも鈍い。加えて新型インフルエンザの流行により、旅行の動きさえも止まってしまう可能性があり、全体として悪い方向に向かっている。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	化学工業（総務担当）	・営業部からの情報では受注量が増える予想がでている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・大手各企業の在庫調整が終わり、いよいよ本格的な生産が行われる。ただし、昨年の生産レベルまでには戻らず、7割程度の回復となる。
		通信業（営業担当）	・受注数に上向き傾向が見えてきており、全体として若干上向いてきた感がある。
		不動産業（経営者）	・今後2～3か月では、少しずつではあるが仕事が入ってきたり、物件が少しずつ動くと聞いている。
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	・個人所得の増加、失業率の低下等消費に結びつく明るい話題がなく、実感としても変化が感じられない。
		繊維工業（経営者）	・底打ち感はあるものの、ここへ来て円高が輸出関連商品の行方に暗い影を落としており、今後の動向が心配である。
		繊維工業（経営者）	・消費者の衣料に対する商品の購買意欲の高まりは依然として見られないため、先行きは厳しい。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・当初、年末には住宅市場の回復を予想していたが、現在では、年末までに回復するかどうか不安視している。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況は現状と変化がない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・依然として為替相場が円高傾向で推移しており、輸出企業にとっては欧米市場の動向とあわせ厳しい状況になると予測される。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・IT関係において、目新しい商品の開発がなく、しばらくは平行状態が続く。
		精密機械器具製造業（経営者）	・受注量レベルとしては、ほぼ現在の状況と同程度で推移すると思われる。また、一つの商品にかかる手間は増える傾向にあり、総仕事量としては増えつつあるが、必ずしもそれに見合う手間賃が得られない場合も多い。
		輸送業（配車担当）	・賃金等がダウンしたこの不景気の中で、消費者の購買意欲が極端に改善するとは思えず、これに伴い物量が今後急速に増加するとは思えない。
金融業（融資担当）		・政府の経済対策の動向に引き続き左右される見通しである。2番底の懸念もあるが、引き続き現状レベルで推移する。	
金融業（融資担当）	・雇用動向が依然はっきりしないこと、政権交代による公共工事の予算執行が遅れることなどが懸念され、景気回復が遅れる。		
新聞販売店〔広告〕（従業員）	・新規出店もなく底上げになるような取引先の出店もないため、マイナス傾向が続く。		
司法書士	・住宅購入や住宅新築をする消費者は、借入れをしないなど借金をできるだけしないようにしている人も目立ってきた。		
やや悪くなる	建設業（経営者）	・これまで取引があった同業者から廃業の通知があった。新政権は公共事業の大幅削減を主張しており、前年10月末に始まった緊急保証制度で何とかこれまで生き長らえた建設業者が、再び廃業、倒産に向かうものと思われる。	
	税理士（所長）	・財務大臣の円高を容認するような発言をきっかけに円高になり、非常に心配している。失われた10年が、20年、30年になるのではないかと不安感がある。早急に為替リスクに対する対策をしないと、中小零細企業はしわ寄せの中でより一層萎縮していかざるを得ない不安がある。	
	建設業（総務担当）	・依然、発注工事が低調であり、受注価格競争が一段とエスカレートすることが予想され、さらに経営環境の悪化が見込まれる。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・企業へのヒアリングでは、製造業では在庫調整が一段落し操業が通常並みに戻ってきているという。積極的な設備投資を行う段階ではないとのことだが、以前よりも経済活動は戻っていると考えられる。
		人材派遣会社（社員）	・求職者の希望にも変化がみられる。期間終了後の再失業や仕事探しなど、短期的な契約での派遣システムにやや抵抗を感じてきている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・現在の求人状況から見て3か月後に上向く兆しは感じられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社（編集者）	・常用雇用の募集が増えてこない。
		職業安定所（職員）	・中小企業からのヒアリングによれば、人材の短期的な需要は若干みられるが、先行き不透明な状況に変化はないとの回答が多い。
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業の生産状況が上向きになっておらず、景気の高揚感を感じない。雇用もしばらくは今の状態が続く。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・中小企業からは相変わらず休業に関する雇用調整助成金の相談がある。
	悪くなる	-	-

## 7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計動向関連	良くなる	-	-	
	やや良くなる	一般小売店〔家具〕（経営者）	・債務返済猶予に関する法案が通れば、一気に小売業を中心とした中小企業が楽になる。	
		百貨店（売場主任）	・特に新型インフルエンザの影響が大きくならなければ、少しずつ回復する。	
		百貨店（売場主任）	・新政権が動き出すことで、消費が様々な刺激を受け始める。不安な面も決して小さくないが、消費意欲に動きが感じられるため、先行きはやや良くなる。	
		百貨店（企画担当）	・以前よりも販促策による集客効果が高まっているなど、消費者の購買意欲が高まっている感があるため、先行きはやや良くなる。	
		百貨店（婦人服担当）	・前年の米国の大手金融機関の破たんによる落ち込みからの反動で、少しは消費者も購入し始める。	
		百貨店（売場担当）	・前年から業界全体で取り組んできた商品価格の見直しや、低価格商品の拡大などの結果が、この下半期から全ての分野で出てくる。少なくとも今に比べれば、消費者の購買意欲を高めることができる。	
		スーパー（企画）	・前年は米国の大手金融機関の破たんて落ち込んだが、前年比で見れば今年は良くなる。	
		家電量販店（経営者）	・エコポイント制度の効果により、年末商戦は盛り上がる事が期待される。さらに、太陽光発電への客の関心が高まっているため、オール電化を積極的に提案することで売上が伸びる。	
		乗用車販売店（経営者）	・減税効果がまだ効いているため、先行きはやや良くなる。	
		乗用車販売店（営業担当）	・徐々に単価の上がっている感があるため、先行きは良くなる。	
		乗用車販売店（販売担当）	・与党のマニフェストが徐々に実現すれば、状況も好転していく。	
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・与党のマニフェストが実行されることにより、消費マインドも高まってくる。	
		高級レストラン（支配人）	・今のところは新型インフルエンザの影響も少なく、観光シーズンを迎えて回復の兆しも出てきているため、今後はやや良くなる。	
		観光型ホテル（経営者）	・2、3か月先の予約状況は例年よりも良い。ただし、新型インフルエンザや天候要因によって、客の動きは今後も変化する。	
		観光型旅館（経営者）	・政権交代への期待感のあるなか、新型インフルエンザ対策を早急に行うことで消費者の不安感も薄れ、景気は上向く。	
		その他サービス〔コインランドリー〕（経営者）	・隣町に競合店ができたが、逆にコインランドリーに対する認知度が上がって売上が伸びる。出店場所も当店の商圏外であるため、価格競争の心配はない。	
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・政権交代により金融市場を中心とした環境が安定すれば、少しずつ上向いていく。	
		変わらない	商店街（代表者）	・最悪期は脱したものの、今後更に上向くかどうかは不透明である。消費の押し上げにつながる力強い要素がないため、しばらくは今の状態で推移する。
			商店街（代表者）	・客の購買マインドは、上向くよりもむしろ悪化が続く。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・客の取り合いで値引き競争が激しくなり、質の良い商品を適正な価格で買ってもらえるケースが少なくなっている。収入の減少という事情もあるが、客に良い物を見極める目を期待することは難しいため、今後も上向くことはない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・新型インフルエンザによる外出や行事の自粛など、経済全体に悪影響が出てくる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・客の節約志向が続いているため、売上は伸びない。
		一般小売店〔菓子〕（経営者）	・政権交代が消費者の心理にプラス効果をもたらすものの、景気を左右するにはもう少し時間が掛かる。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・小規模店舗の状況が良くなるのは、まだまだ先である。
		一般小売店〔コーヒー〕（営業担当）	・新規客の増加は全く見込めない状況で、既存店の売上は現状維持が精一杯である。売上の伸びる連休なども、最近は人の流れが変わっているため、秋の行楽シーズンにも期待できない。
		百貨店（売場主任）	・秋冬商戦は購買の中心が主婦層となるため、財布のひもが固くなる懸念はあるものの、米国の大手金融機関の破たんから1年が経過するため、前年比では回復基調となる。
		百貨店（売場主任）	・人口の減少や物が余っているという時代背景のほか、気候や気温が不安定といった先行きの不安要素があり、すぐに景気が良くなるとは考えにくい。ただし、気候などに変化があれば、回復に向かう可能性はある。
		百貨店（企画担当）	・季節商品の実需買いがみられるほかは、ヒット商品などの力強い動きはないため、今後も大きな変化はない。
		百貨店（営業担当）	・催事を何度か企画しているが、客の動きが今一つ鈍いため、今後も上向き気配はない。
		百貨店（サービス担当）	・秋の訪れが遅いため、今年の秋物商材の販売は苦戦する。また、来月中旬には歳暮商戦も立ち上がるなど、季節感の感じられない雰囲気があるため、消費者の購買意欲も盛り上がらない。
		百貨店（店長）	・政権交代によって雰囲気は少し明るくなったが、すぐに状況が良くなるわけではなく、現実的には客の財布のひもはまだ固い。賃金の動向もかなり厳しい状況であるため、今の状態はなかなか打破できない。
		百貨店（マネージャー）	・売上前年比の減少率は緩やかに回復しつつあるが、依然として雇用問題があるため、個人消費の回復にはつながらない。12月の賞与も厳しい状況となるため、しばらくは横ばいの状況が続く。
		スーパー（経営者）	・価格が安いだけでは売れない一方、品質が良くても高ければ売れない。少しでも安く値打ちのある商品しか売れないため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（経営者）	・一般的なサラリーマンの給与は減少傾向であり、良くなる要素が見当たらない。
		スーパー（経営者）	・子ども手当などに期待がかかるが、支給が始まるまでは客の節約志向が続く。特に、今は競合他社も同じように特売を行っているため、いくら安くても必要でない物は買わない傾向が続く。
		スーパー（店長）	・消費者の節約志向は続いているが、一定の付加価値のある商品には需要がある一方、単なる安物は全く人気がない。いかに機能性に優れた商品や、味や鮮度にこだわりのある商品をそろえ、消費者の購買意欲を高めるかが重要であり、簡単には上向かない。
		スーパー（店長）	・消耗品や生活必需品の価格は低下が続くほか、求人倍率も上向かない状態が続くため、デフレ傾向が進むことになる。
		スーパー（店長）	・エコカー減税やエコポイント制度など、政府の景気対策が消費のプラス要因となるものの、所得の減少や雇用の悪化、天候不順、新型インフルエンザの流行拡大といったマイナス要因もあるため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・過疎化や高齢化の進んでいる地方都市では、景気が上向きになる材料が見当たらない。特に小売は厳しい状況となる。
		スーパー（店長）	・政権は交代したが、消費者はまだ様子見の段階で、消費に変化が出るまでは時間が掛かる。また、収入が増える要素も見当たらない。
		スーパー（企画担当）	・回復の兆しがないほか、客の買い渋りが定着しているため、今後も厳しい状態が続く。
		スーパー（広報担当）	・今後も生活防衛意識の高まりによる低価格志向が続くため、個人消費は低迷する。
		スーパー（社員）	・競合店の増加により既存店の売上はやや不振となっている。ただし、全体として食品部門を中心に堅調な動きとなっているため、年末に向けて現状は維持できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（管理担当）	・消費は今のような低い水準で安定する。
		コンビニ（経営者）	・近隣のオフィス空室率は改善しておらず、来客数の回復する見込みがないほか、客単価も低い水準で推移する。
		乗用車販売店（経営者）	・車検や一般修理、新車販売共に予約が少ないため、売上は増加しない。
		乗用車販売店（営業担当）	・期限を決めた形での購入促進策が続くため、しばらくは上向き傾向が続く。
		住関連専門店（店長）	・政権交代は明るい材料であるが、景気回復の波及が遅れて出てくる業界であるため、他業界の回復が定着するまでは苦しい状況が続く。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・季節の変わり目で朝夕は少し寒い日もあり、風邪を引く人も増えている。風邪を引く人が増えれば、新型インフルエンザ関連の商品の動きも良くなる。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・最近の状況から判断して、悪いなりに安定的に推移する。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・売れ筋商品があるわけではないが、周囲で倒産の話が出るほど悪いわけでもないため、大きな変化はない。
		一般レストラン（スタッフ）	・来客数が下げ止まらない以上、3か月先も横ばいで推移するか、現状よりも悪化が進む。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・12月商戦に向けた販促が急務であるが、肝心のボーナス支給額は増えないため、消費の拡大にはつながらない。
		その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・ここ数か月は良い話が聞かれず、大きな変化がないため、今後も今の状況が続く。
		観光型ホテル（経営者）	・10、11月は年間の最需要期であるが、予約状況は過去にないほど悪い。さらに、毎年恒例の団体客からは新型インフルエンザの流行を理由にしたキャンセルも出始めている。
		観光型旅館（経営者）	・客単価の伸びるシーズンに入るが、好転する要因は見当たらず、売上の予測も立たない。
		観光型旅館（団体役員）	・国の経済政策による効果はすぐに出ないほか、新型インフルエンザの流行も懸念されるため、明るい見通しは持てない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先行予約は宿泊、宴会共に大きく悪化しているため、値下げによる個人客の利用増に頼る傾向が続く。
		都市型ホテル（マネージャー）	・宿泊部門では外国人観光客が戻りつつあるが、円高傾向が強まっており楽観できない。また、比較的堅調に推移していた宴会部門にも陰りが出始めている。
		都市型ホテル（営業担当）	・宿泊は10月から繁忙期となるが、予定稼働率は前年比で2けたのマイナスとなるなど、予約状況は非常に悪い。ただし、9月から間際予約が伸びているため、まだ先行きは不透明な状況である。一方、一般宴会は先の予約が入っておらず、今後も厳しい状態が続く。
		都市型ホテル（役員）	・宿泊の予約状況は若干上向いてきたが、稼働率を上げるための値下げ競争が厳しいため、今後も売上は一向に増えない。宴会部門も第3四半期に入って予約状況が悪化するなど、景気の低迷で宴会需要が更に冷え込んでいる。
		旅行代理店（経営者）	・個人客の海外旅行は堅調に動いているが、法人や団体客、国内旅行には一向に上向き気配がない。
		タクシー運転手	・これといった行事もなく、客の増える要素がないため、今の状況が続く。
		タクシー会社（経営者）	・経費削減で法人のタクシー利用は今後も減少が続くほか、個人客も緊急時以外は公共交通機関を利用したり、環境意識の高まりで自転車や徒歩で移動したりする傾向が強まっているため、今後もタクシー利用は法人、個人共に減少が続く。
		通信会社（経営者）	・冬商戦を控えて、若干の盛り上がり期待できる。ただし、通信会社による販売促進費削減の動きがあるため、携帯電話の売上はあまり伸びない。
		テーマパーク（職員）	・政権が交代したとはいえ、経済情勢が劇的に変わったわけではないため、今後も状況は大きく変わらない。
		観光名所（経理担当）	・9月の大型連休では来客数が前年を上回ったが、これまでの状況をみると先行きは楽観できない。特に、新型インフルエンザが再流行すると大きな影響が出る。
		競輪場（職員）	・例年この時期は変化がないが、今年も大きく好転する要素は見当たらない。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・新政権に対する消費者の期待がどう推移するかによって、観光、レジャー業は大きな影響を受ける。今のところは、先行き不透明感が大きい状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・9月が悪かった分、10月以降にその分の乗客増が見込めるが、新型インフルエンザの流行がピークとなるため、外出する人が少なくなる。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・消費者が景気の先行きに不安を持っているため、生命保険への加入を控える傾向が続く。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・レンタルの格安料金による集客効果はあるものの、売上全体がどの程度増えるかは不透明である。
		住宅販売会社（経営者）	・不動産市場も需要と供給とのバランスが取れてきたため、今後は安定していく。
		住宅販売会社（経営者）	・戸建住宅や分譲マンションの販売状況が悪すぎるため、今後も厳しい状況が続く。一部の高所得者は物件を探しているが、それ以外の客はほとんど反応がない。相場より安い物件の折込チラシを入れても、現場に来る人は非常に少なく、チラシ5万枚に対して1組あるかないかの状態である。
		住宅販売会社（経営者）	・地価の下落は止まった感があるものの、まだ市場の動きに反応はないため、しばらくは今の状態が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・政権が交代したこともあり、全般的には様子見が続く。今後、更なる景気対策が講じられれば上向くが、不透明な部分が多い。
		住宅販売会社（従業員）	・新築マンションの販売戸数は減少しており、更に12月と来年の3月には完成在庫が再び増加するため、在庫調整が一段落するまでは厳しい状況が続く。
	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・政権交代後も住宅政策には目新しい動きがないため、客の住宅購入意欲が喚起されることはない。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・売上は右肩下がりであるほか、メーカーが急激に直販店を拡大しているため、先行きの見通しは非常に厳しい。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・今年は暖冬となるため、冬物衣料の売上は上向かない。
		一般小売店〔雑貨〕（店長）	・健康意識の高まりで喫煙率が低下する限り、売上もなお一層減少していく。
		百貨店（営業担当）	・新政権の動きにはまだ不透明な部分も多く、富裕客の間に買物を増やす動きはない。今後、新型インフルエンザの影響も出てくれば、景気は更に悪くなる。
		スーパー（経理担当）	・雇用情勢の悪化による所得の減少が顕著で、節約志向はぜいたく品だけでなく日用品の食材にまで広がっている。当面は好転する要素が見当たらない。
スーパー（開発担当）		・ガソリン価格が徐々に上がってきているため、先行きの見通しは厳しい。	
	コンビニ（店長）	・キャンペーン時とそれ以外の販売量に大きな差があり、客には少しでも節約しようという動きがみられる。商品を選ぶ際に価格を重視する傾向が強まっているため、先行きの見通しは厳しい。	
	コンビニ（店長）	・タスポの導入効果が一巡した6月以降、コンビニの売上は前年比で落ち込んでいる。特にファストフード食材やおにぎり、弁当の販促競争が激しく、客単価が低下している一方、それに見合った販売量が確保できず、売上の減少につながっている。客のコンビニ離れもあるため、この状況が改善されることはない。	
	衣料品専門店（経営者）	・今年度補正予算や来年度予算の見直しにより、商店街で計画している販促イベントのスケジュールがずれ込むなど、影響が既に出始めている。客の財布のひもが緩くなるまでには、まだまだ時間が掛かる。	
	衣料品専門店（販売担当）	・生活防衛意識の高まりによって消費が抑えられるため、先行きの見通しは厳しい。	
	衣料品専門店（営業・販売担当）	・客から聞かれるのは景気の悪い話ばかりである。	
	乗用車販売店（経営者）	・好材料がないほか、金銭的に自家用車を維持できなくなっている客が増えている。	
	一般レストラン（経営者）	・近隣のスーパーと飲食店が閉店するうわさがあるため、地域への客足全体が減少することで、当店の来客数も減る。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊部門では、新型インフルエンザの感染拡大で製薬会社の会議が増えている一方、秋から冬にかけては個人の旅行客が減少する。	
旅行代理店（店長）	・新型インフルエンザの影響が本格的に出始める。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（広報担当）	・9月が好調となった反動で、10、11月の予約は低調である。売れるはずの10月の3連休も伸びておらず、年末年始も動きが悪い。今後は新型インフルエンザの影響も懸念されるなど、状況は悪くなる。
		観光名所（経理担当）	・今月は天候に恵まれ、残暑も厳しくなかったため、来客数は久しぶりに前年を上回っている。特に、大型連休は予測を上回る人出となり、飲食店を中心に売上も5か月ぶりに前年比でプラスとなっている。夏休みを避けて9月に訪れる人が増えた結果であるが、今月はやはり特別な月であるため、来月以降はその反動が出る。
		観光名所（所長）	・新型インフルエンザや政権交代の影響が懸念される。
		遊園地（経営者）	・新型インフルエンザの流行が懸念されるため、先行きははや悪くなる。
		その他レジャー施設 [ 球場 ]（経理担当）	・プロ野球シーズンが終了し、企業イベントや社会人野球といった集客が少ないイベントが中心となるため、先行きははや悪くなる。
		住宅販売会社（総務担当）	・贈与税などの税制に関する、政権交代の影響が懸念される。
		その他住宅投資の動向を把握できる者 [ 不動産仲介 ]（経営者）	・金融機関の融資に対する姿勢が厳しくなるため、先行きははや悪くなる。
	悪くなる	商店街（代表者）	・冬の天候不順が予想されるほか、給料カットが進んでいるため、消費者の財布のひもがますます固くなる。
		一般小売店 [ 衣服 ] （経営者）	・競合店やショッピングセンターでは必死の努力を続けているが、売上には努力の成果が見えないため、先行きの見通しは厳しい。
		一般小売店 [ 珈琲 ] （経営者）	・大企業の倒産や公的資金の投入によるリストラが増加するため、小売店の状況は更に悪化する。
		一般小売店 [ 貴金属製品 ] （従業員）	・2、3か月では新政権による新たな政策の実施は困難なほか、消費の抑制傾向も強くなるため、先行きの見通しは厳しい。
		一般小売店 [ 精肉 ] （管理担当）	・景気回復の雰囲気がないままで、前向きな見通しは持ちにくい。景気は底を打ったものの、実感している客は非常に少ない。政権交代による良い影響が出るのは当分先のことになるため、年末までは我慢比べとなる。
		衣料品専門店（経営者）	・客が少なく、何を売ればよいかすら分からない状態であるため、今後は更に悪くなる。
		タクシー運転手	・最近では流し営業で客を待つ同業他社が増えているなど、先行きには期待できない。
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・受注が増えるほか、新規事業も売上に貢献するため、状況は良くなる。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・最近では円高が進んでいるため輸入企業の好調が目立っているほか、環境関連でも研究機関の調査報告書などで、ベトナム語やタイ語といった東南アジアの言語での作成依頼が出てきている。今後はアジア諸国の結びつきが強まるなか、日本の環境技術や災害関連の情報提供など、ソフト面での動きが増えてくる。
		化学工業（経営者）	・現状はあまり良くないが、昨年末から一気に悪化したため、前年比という意味では多少良くなる。
		化学工業（管理担当）	・土木、建設業の需要には回復の兆しがなく、受注はあっても競争激化の影響で値引き要請が強い。その一方、自動車、家電向けの樹脂が引き続き好調で、特にLED照明や太陽光発電関連の業界は活況を呈しているため、先行きはやや良くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・身の周りで商談は増えているため、数か月先には上向いてくる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・引き合い件数が増えているため、先行きはやや良くなる。
		建設業（経営者）	・先行きについては、いくつか受注できそうな案件がある。大手の不動産会社が積極的に土地の仕入れを始めており、当社にも好影響が及んでくる。ただし、前年並みの水準に戻ることはない。
	変わらない	広告代理店（営業担当）	・環境関連や新型インフルエンザ対策で、各自治体が補助予算を組む気配があるため、先行きはやや良くなる。
		繊維工業（団体職員）	・受注減が続くため、国内景気の回復はまだまだ先である。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・荷物の配達量が変わらないため、状況は大きく変わらない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・特需的な要素がない限り、状況は変わらない。
		金属製品製造業（管理担当）	・今年度の上期は大幅な赤字であったが、目立った案件の情報もないため、下期も赤字となる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・市場の動きから判断すると、景況が急速に良くはならないが、悪くもならない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・コスト面の改善が遅れているほか、需要の回復も遅いため、今後も厳しい状況が続く。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・エコポイント制度の効果は年末までは持続するため、今後も好調となる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・今は仕事が入ってきているが、先行きについては不透明である。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・今の市場環境では受注量の増加は不可能であり、新製品の販売に期待するしかないなど、今後も厳しい状況となる。
		建設業（経営者）	・政権交代による公共工事の減少が不安である。
		建設業（経営者）	・今後、住宅のリフォーム需要については期待できるが、政権交代の影響や新型インフルエンザの流行が懸念される。
		建設業（営業担当）	・前年は新エネルギー関連で設備投資の動きがあったが、今年はけん引する分野が見当たらない。特に来年度以降の情報が非常に少ないため、半年後には景気悪化が進む。
		輸送業（総務担当）	・まだまだ消費の鈍化が続いており、明るい材料が見当たらない。
		輸送業（営業所長）	・新規案件も少しは出てきているが、条件が厳しいなど、先行きは楽観視できない。
		金融業（支店長）	・取引先の建売業者をみると、4月ごろは住宅ローン減税の拡大で好調であったが、今月は全く売れていない。便利な立地でなければ客の反応も薄いため、販売戦略にも迷っている状態である。周辺に分譲マンションは更に深刻な状況であるため、先行きは非常に不透明である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・購読数は維持できても増えることはない。若い世代での活字離れが進み、新たな入居があっても購読数の増加につながらない。折込件数も底入れ感はあるものの、良くなる様子はない。
		広告代理店（営業担当）	・景気全体が上向いてこない限り、広告業界の回復は難しい。
		広告代理店（営業担当）	・今年になって売上、広告量の半減した状況が続いているが、これから良くなる材料は見当たらない。
		経営コンサルタント	・10月は来年度の計画を立てる時期となるが、まだ方向性に明るさがみられない。各社共に、今はまだ何とか現状維持を目指している状態である。
		司法書士	・政権交代の影響は短期間では出てこないため、しばらくは今の状態が続く。
		コピーサービス業（従業員）	・新型インフルエンザの流行拡大により、今冬は5月と同様に客足が遠のき、売上に大きな影響が出る。
	やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・業界のトップメーカーがプライベートブランド商品を製造し始めており、中小メーカーの商品が通常の価格では売れなくなっている。今後も販売量は横ばいで推移しても、価格は下落し続けるため、メーカーは規模の大小を問わず良くならない。
		繊維工業（総務担当）	・催事での客の動きに変化がないため、各地の小売店に当社が直接売り込む体制に移行しつつあるなど、先行きに期待できる状況ではない。
		金属製品製造業（経営者）	・政府による公共工事の中止などを受け、今後の受注動向が懸念される状況となっている。
		金属製品製造業（総務担当）	・公共工事の予算見直しにより、受注が減少する。
		金属製品製造業（営業担当）	・政権交代によって公共事業が削減されるため、仕事が減る。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・新政権には期待しているが、周囲の中小企業の業績が上向いてこない限り、景気回復は難しい。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・円高による景気の後退懸念により、住宅の購入環境はますます悪くなるため、これから年末にかけて更なる販売不振に陥る。
		その他製造業〔履物〕（団体役員）	・失業率の悪化や新型インフルエンザの動向など、先行きへの不安が大きい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	輸送業（営業担当）	・今月に入って業務縮小や休業を行う工場があり、全体的に荷物が減っているため、先行きの見通しは厳しい。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・仕事の内容は変わらないが、条件が徐々に厳しくなっているため、先行きはやや悪くなる。
		繊維工業（総務担当）	・景気回復への期待感から消費の増加を予想していたが、今月は良くなるどころか悪化している。政治の先行き不透明感や新型インフルエンザの流行拡大、暖冬などを考慮すると、先行きの見通しは非常に厳しい。
		不動産業（営業担当）	・当地域では事務所だけでなく住宅のニーズも減っているため、居住人口も減ってきている。住宅の空室が増えれば、ますます賃料も下がるため、住宅、事務所共に今後も悪化傾向が強まる。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		人材派遣会社（経営者）	・企業が明るい雰囲気になってきたのは間違いなく、求人動向も7～8月ごろに底を打った感がある。今後も営業や経理などの様々な求人が出てくるほか、IT関係でも大手生保が動き始めている。採用条件を絞った求人が多いため、応募は集まりにくいのが、雰囲気が良くなっていくことは間違いはない。
		人材派遣会社（支店長）	・政権交代により派遣雇用の先行きは不透明となっているが、企業の体力は徐々に回復している。業界による差はもちらんあるが、年末に向けて動きが出てくる。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・非正規雇用求人には減少が続いていたが、底を打った感もある。正規雇用はそれ以上に比較的順調な状況となっており、この傾向は今後も続く。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・10月に開催する大きな人材募集のフェアでは、業種は限られるものの通常より参加企業が多いなど、動きが出てきている。
		民間職業紹介機関（支社長）	・求人への下げ止まりが景気回復を意味するわけではないが、採用者数も単月では今期最高となる見通しであり、徐々にではあるが最悪期は脱していく。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・製造業では求人件数の伸びと共に派遣依頼も増加しているが、一般事務職は依然として余剰感が根強いので、求人件数は引き続き伸び悩む。
		人材派遣会社（社員）	・政権交代が大きなかぎであるが、数か月先はまだ様子見の状態が続く。自動車産業にはやや回復の兆しがあるものの、エコカー頼みでは大きな期待はできないなど、回復のけん引役が見当たらない。
		人材派遣会社（支店長）	・年末に向けて販売職の短期受注は増えてくるが、今年には人数が半分程度となる。また、民間企業からの長期の派遣依頼は今後も増えることはない。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・新政権は様々な雇用対策、景気対策を掲げているものの、雇用状況の改善には相当の時間が掛かる。改善傾向がはっきりするまでは楽観視できない。
		職業安定所（職員）	・エコカー減税などによる自動車の新規登録台数の増加傾向に伴い、関連企業に多少の回復がみられる。ただし、中小企業の間では新規の休業が増えており、楽観できる状況ではない。
		職業安定所（職員）	・企業からは先の見通しがまだ立てられないとの声が多いため、先行きも状況はあまり変わらない。
		職業安定所（職員）	・求人の減少幅、求職者の増加幅共に落ち着きが出てきている。ただし、先行きは依然として不透明で、求人が増加に転じても動きは慎重であるため、状況は大きく変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設部門を中心とした日雇求人は既に最悪の水準まで落ちており、働く力のある年齢の失業者もかなり生活保護へ流れている状況であり、今後も大きな変化はない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・企業による今後の採用方針には、しばらく変化がない。
		民間職業紹介機関（大学担当）	・企業体力や採用姿勢の改善について、まだ先の見通しが立たない。
		職業安定所（職員）	・メーカーだけではなく、中小零細企業を中心に、幅広い業界で新規雇用に慎重な姿勢が広がっている。これまで中小企業には、不況でも良い人材がいれば採用する企業が多かったが、現在は必要な人数しか雇わないという企業が増えているため、雇用の回復にはまだ時間が掛かる。
		やや悪くなる	職業安定所（職員）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・求人数は毎月減り続けており、正社員の求人倍率は0.3倍台と非常に厳しい状況であるほか、休業する企業も減る様子がない。
		職業安定所（職員）	・求人は出始めているが、正社員求人が少ないため、先行きの見通しは明るくない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・円高傾向が進んでおり、雇用環境も様子見の状態となる。
	悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今後3か月先の見通しは全く振るわない。特に関西企業の業績が悪く、営業を行っていても良い話が聞けない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・良くなる要因が全くない状況であり、下期には来期の予算を決めることになるが、今期の実績自体が不透明となっている。

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由			
家計動向 関連	良くなる	その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・10月、11月に3連休があり、人の動きが良くなる観光シーズンと重なるためかなりな数字が期待できる。			
		やや良くなる	商店街（代表者）	・街の者、客の顔、言動に今までにない明るさが現れてきており、街の活性化につながる。		
			百貨店（営業担当）	・業種別に見ると、やや良くなってきているものもあるという話も出始めたので、今後少しは期待が持てる。ただし雇用への不安感が払しょくできておらず、安心はできない。		
			百貨店（販売促進担当）	・来客数、売上とも少しではあるが伸びてきている。テナントの売上状況は、まちまちであるが、買物に来ている客の様子等からも、景気が少し持ち直してきつつあることがうかがえる。		
			コンビニ（エリア担当）	・年末に向けての商談の好調な様子などを見ても、また客の消費動向から見ても、年末に向けてこれ以上は悪くなることはない。		
			家電量販店（店長）	・エコポイントの効果で、年末は売上が上がってくる。		
			家電量販店（店長）	・10月は新基本ソフトウェアの発売があり、不調であったパソコンや周辺機器の販売が復調する。また、エコポイント効果で薄型テレビは引き続き好調を維持する。		
			家電量販店（店員）	・2～3か月先には年末のセールになり、またエコポイントも継続中であるため、売上は伸びる。		
			家電量販店（予算・企画担当）	・エコポイント制度が年度内で終了するため、ある種の駆け込み需要が見込まれる。ただし、需要の先食的な要素が大きいため、来年度以降は反動による売上減が懸念される。		
			乗用車販売店（統括）	・減税と補助金効果が今年2月まで持続する。		
			乗用車販売店（販売担当）	・新商品の投入が続くため、期待が持てる。		
			乗用車販売店（営業担当）	・減税、補助金の実施されて3か月が経過して情報も行き渡り、購入を検討する客はまだ増加するため、売上は更に増加していく。ただし、来年実施される可能性がある暫定税率の廃止が気にかかる。		
			その他専門店〔海産物〕（支配人）	・年末に向かうと、かに等、歳暮の需要が出てくるので期待できる。		
			一般レストラン（店長）	・先月、今月とランチタイムを中心に来客数が増えてきており、このまま年末に向けて良くなっていく。		
			美容室（経営者）	・年末を控えてこれからも企画等を組んでいくので、これから3か月は良くなっていく。やや悪い流れのままではないよう努力している。		
			変わらない		商店街（代表者）	・補助金を活用した新規開店事業が、この度の政権交代にて一時ストップとなっており、今後の動向でどうなるか分からない。
					商店街（代表者）	・新しい与党は張り切っており、その政策次第である。消費は心理的な要素が強く、その点では景気を刺激する。
					一般小売店〔酒店〕（経営者）	・地方の小さな町は景気や雇用が上向いてきた実感に乏しく、現状維持が精一杯の状況で、良くはならない。全般的に少子高齢化の状況が年々厳しくなっており、人口減が商売のやりにくさを加速させる。
					一般小売店〔紙類〕（経営者）	・8月以降、観光客はずっと増加傾向にあり、例年だと11月が最も観光客が多いので、この傾向が維持される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・景気は徐々に上向いているように思える反面、ちょっとしたことでまた悪くなりそうだ。また、客は衣料品の買い控えに慣れてきている。
		百貨店（営業担当）	・客の購入傾向を見ているとまだまだシビアで、景気回復を感じるまでには至らない。
		百貨店（販売促進担当）	・自治体が、第2弾の20%お得な「プレミアム付き商品券」を12億円分を発行して、ほぼ完売した。今後の消費高揚のカンフル剤となる期待感がある反面、取引先は売上低迷のなか、生産する量、種類とも絞っており、地方店においては物の確保自体が厳しい状況になりつつある。
		百貨店（購買担当）	・ここ数か月、客は経済状況が上向きでないこと、また自身の経済状況が良く分っており、常に低価格なセール商品を店頭においておかないと来客数が確保できない。したがって、来客数が確保できても、客単価は下がる状況が続く。
		百貨店（売場担当）	・お歳暮ギフト需要は微減、クリスマスも単価ダウンや物離れに拍車が掛かり、厳しい商戦が予想される。気温も暖冬予想がされており、良くなる要素は何もない。
		百貨店（販売担当）	・来客数は前年並みに戻りつつあるが、客単価は大幅に下がったままである。客の購買意欲は戻ってきていない。
		スーパー（店長）	・冬のボーナスも夏同様前年をかなり下回りそうであり、また政治の先行きも不透明であることから、客は生活防衛の態度を変えずこのまま推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・客は100円おにぎりに慣れてしまうと、通常価格には手を出さなくなるため、コンビニの主力商品であるお弁当やおにぎりの低価格化が進み、客単価の低下傾向は継続する。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数は最近ずっと同じ前年比で推移しており、これからもこの動きで推移する。ただし客単価が下がっており、衝動買いを呼び込むような販売施策をこれから打っていく。
		衣料品専門店（経営者）	・悪くなった状態に変化の兆しが全くない。
		衣料品専門店（店長）	・良くなる要因が見つからない。客はポイント5倍、10倍という付加価値がある時にまとめて買う傾向が強まって、平日は来客数、客単価とも極端に減少しており、この傾向は変わらない。
		乗用車販売店（サービス担当）	・補助金等の新車優遇処置等が終息しないと、中古車は良くならない。売れても、安い車ばかりである。
		自動車備品販売店（経営者）	・現状では極端に悪くなるとは予測されず、かといって好調に反転するとも予測できず、一進一退の状況が続く。
		その他専門店〔和菓子〕（営業担当）	・よくなる要素も、これ以上悪くなる要素も見当たらない。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・しばらくは外食の手控え、節約の方向性は変わらない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・行楽シーズンが終わってからの予約状況を見ると、昨年よりも出だしが悪い。その反面、高速道路料金引下げのため人の動きは激しくなる。
		観光型ホテル（経理総務担当）	・宿泊部門は堅調に推移しているが、宴会部門での法人利用は相変わらず低調のまま推移する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・忘年会の問い合わせも少なく、予約状況が悪い。
		都市型ホテル（総務担当）	・新型インフルエンザはいつ当地でも流行するか分からず、また風評被害が起こりやすい。さらに、新政権になってからのこれからの政治動向はまだ読めず、円高が進行すれば訪日旅行者に影響が現れ、燃料費が高騰すれば交通にもふり、先行きはより不透明になっている。
		タクシー運転手	・これからのイベントなどはあるが、全体の需要を底上げするまでには至らない。
		タクシー運転手	・最近ずっと売上が前年比マイナス10%の状態が続いていること、客の政治についての不満の声を聞くことが多いことから、このままの状況が続く。
		タクシー運転手	・取り巻いている環境についてはやや良くなるか、変わらない。企業の費用削減志向は相変わらず厳しく、昼も夜も厳しいと思われるが、ただし農繁期が終わるため、郡部から町に出る動きが出て、少しは回復する。
		通信会社（営業担当）	・ケーブルテレビ既契約のデジタル化への移行ニーズは強くなってきているが、新規契約に対する引き合いは相変わらず弱い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		テーマパーク（業務担当）	・次回実施する利用促進イベントの周知を効果的に行うことで、現状を維持する。ただし新型インフルエンザの流行拡大がマイナス要因となることも懸念される。		
		テーマパーク（管理担当）	・政治の動向もあり、客は全体的に様子見の状態である。		
		ゴルフ場（営業担当）	・ゴルフ場はこれからがシーズンなので、例年これから3か月は他の月と比べて良い。ただし、年々プレー単価や料理単価が落ちているので多くは期待できない。		
		競艇場（職員）	・入場者がこれからも横ばいの状況が続く。		
		設計事務所（経営者）	・政権交代で補助金まで見直しがあり、箱物の仕事は増えない。		
		設計事務所（経営者）	・政権が変わったものの、住宅や建築に関わる政策が変わらなければ、建築関連の景気が上向かない。		
		住宅販売会社（従業員）	・客、業者ともにしのぎを削るような状況での商談は時間がかかり、受注増という方向性に結び付くにも、更に時間がかかる。		
		住宅販売会社（販売担当）	・展示場、イベント、売り出しへの来場者が相変わらず少なく、今後も販売量が増えない。		
		住宅販売会社（経理担当）	・住宅に対して、環境問題への関心から太陽光発電や自然冷媒ヒートポンプ給湯機などの採用が増える可能性はあるが、そのような設備は予算が割増しになるため、結果的に客の住宅への購入意欲が低下する。		
		やや悪くなる		商店街（代表者）	・ゴルフは連休があったため今月は大変悪く、10月は通常なら良い月なのだが、今年はこの流れで悪くなりそうだ。
				一般小売店〔印章〕（営業担当）	・これから駅周辺の商業施設で撤退するものがあり、地域として印象がより悪化する。
				百貨店（売場担当）	・長期の売上不振から、テナントの撤退や販売員の上げが常に待ちかまえている状況となる。
				スーパー（店長）	・収入が減少しているなか、客の購買意欲は向上せず、競合店との価格競争が厳しさを増すため、客単価、1品単価の減少はまだまだ続き、利益の確保が困難になる。
				スーパー（総務担当）	・この冬暖冬になるという予報も出ており、鍋材料の動きが悪くなる。また、「行ったらついつい買ってしまうから行かないようにしている」という客が多く、そういう人がこれから増える。
				スーパー（経営企画）	・商品の量目の小分けや少量化と、一層の低価格化の動きがこれからも続く。
コンビニ（エリア担当）	・このデフレの傾向はまだまだ続き、景気の回復は望めない。				
衣料品専門店（地域ブロック長）	・雇用情勢はまだまだ悪く、消費者の購買意欲は上がってこない。				
衣料品専門店（販売促進担当）	・トップスとボトムスのトータルで1万円以内の購買が目立っているため、2万以上の高額商品が苦戦する。今後、いかにアウトターが動くかが厳しい。				
衣料品専門店（地域ブロック長）	・客の話では企業業績など厳しい状態が続くそうで、客単価、来客数等についても更に厳しさを増していく。				
家電量販店（店長）	・客の心理に不況感が強く刻まれており、これから苦戦する。このままでは死活問題となり、真のサバイバル時代が到来しそうだ。				
自動車備品販売店（店長）	・高速道路料金引下げの効果により車のメンテナンス、ETCの購入で一時景気が良かったが、高速道路料金の無料化が打ち出されているためETCの買い控えが起こる。				
通信会社（企画担当）	・客と話をしていると「政権交代の影響で、これから四半期程度は景気は悪くなる」との意見が多い。				
通信会社（通信事業担当）	・すべてにおいて様子見の雰囲気があり、新規加入の動きは、全くといっていいほどない。				
テーマパーク（広報担当）	・インフルエンザ感染の拡大を懸念している。				
美容室（経営者）	・もう1～2年、この悪い状況が続くのではないかと同業者と話をしており、良くなるような状況が見えない。				
悪くなる		商店街（代表者）	・客は将来の不安、不透明感にあえいでおり、このため我々もまた少子化、オーバーストア、デフレの三重苦にあえいでおり、経済・政治状況等、どこを取って見ても、将来にどんな明るさも見出せない。		
		商店街（代表者）	・高速道路料金引下げのために、冬物ファッションも大都会で買われてしまう。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・付近で閉店、退店が相次いでおり、地域としての魅力がどんどんと落ちている状況から見て良くならない。
		スーパー（店長）	・地方都市では家計収入の減少は更に進み 年末にかけて更に不況感は強くなる。
		スーパー（財務担当）	・個人消費の急速な回復は望めないため、ますます低価格志向は強まる。
		住関連専門店（広告企画担当）	・1品単価が下がるのと、数量が伸びないのと、両方から悪くなる。
		一般レストラン（店長）	・連休が多く、その前後の来客数の落ち込みが大きくなり、客単価も低くなる。
		都市型ホテル（経営者）	・新型インフルエンザの流行が加速し、旅行や出張の手控えが一層進む。
		美容室（経営者）	・消費を抑えて耐え忍んでいるといった客が多く、仕事がかこれから回ってくるといったような話は聞かれない。
		設計事務所（経営者）	・景気回復の材料が乏しいため、消費の回復が見込めず、受注減がしばらく続く。
企業動向 関連	良くなる やや良くなる	食料品製造業（総務担当）	・順調に売上が出て、利益率も確保できている状態で新製品を出すため、過去最高の利益が出る期待感がある。
		食料品製造業（業務担当）	・消費を我慢していた消費者は、日常の節約は継続するものの、大型連休や年末年始などの特別な時には商品を購入する動きが出てきた。当社の製品はサービスエリアにおいての販売量が多いため、高速を利用して人が動けば、売上アップにつながる。
		鉄鋼業（総務担当）	・円高の進行やエレクトロニクス関係の底割れが懸念されるが、中国・東南アジア地域の経済成長に期待できる。
		電気機械器具製造業（広報担当）	・受注増がある程度見込める。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・家電関連には秋・年末商戦に向けて、この夏のエコポイント商戦が好調なことから、高止まりの受注計画が入ってくる。人員移動によりラインの対応をしているが人員不足となっており、1年振りの中途採用を検討している。
		通信業（部門長）	・政権交代により政策見直しは活性化してきており、雇用、福祉、子育てなど身の回りの取り巻く環境などに変化が現れ、個人消費が拡大し、結果的に製造、生産も伸びてくれれば売上も伸びる。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・イカ釣り漁に期待が持てるようになってきた。京都や長崎、北海道から浜田沖に漁にきており、このまま好調を維持する。7月からのエチゼンクラゲの発生は、沖合い底引き網、大中型巻き網船には痛手となっているが、これからも増加傾向にある。
		木材木製品製造業（経理担当）	・実感するほどの受注の増加がない状況が続く。
		化学工業（総務担当）	・これからも現状を維持する。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼業向け生産は現在の状態が続く見込みだが、焼却炉向けの引合がなく生産量も現行水準程度である。10月納期で付加作業の多い製品の受注があるためやや多忙感があるが、この分野の11月以降の受注は低調である。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・在庫削減の反動としての需要急伸も落ち着き、横ばいの状況が続く。
		金属製品製造業（総務担当）	・得意先の受注量が少ないため、当社への受注も必然的に低くなり、昨年比50%にとどまっている。今年の年末からよくなるのではとの想定であったが、そのような兆しはいまだ見られず、現在の非常に厳しい状況が続く。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内、海外共に市場の冷え込みは長期化しており、今後も売上不振の厳しい状況が続く。
輸送用機械器具製造業（経営者）	・ひと頃に比べられるほどは良くなってはいないが、まだまだこのままの状態は持続する。ただし自動車については11月ごろから、多少落ちるかもしれないという情報が入っている。		
輸送用機械器具製造業（経理担当）	・3か月前に比べると受注量も安定してきたが、長期の内示を見るとまだ回復傾向とはいえない		
建設業（経営者）	・来年度になって、景気回復が見極められなければ民間設備の増加に期待がもてない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（統括）	・固定費を増やさなければ増収が望めなくなっているにもかかわらず、景気の影響で自社の費用を圧縮したため、現状以上の多くの収入を確保しにくい状況にある。
		金融業（業界情報担当）	・依然として前年比7～8割程度の稼働率ではあるが、回復基調を継続する。
		金融業（営業担当）	・取引先の経営者と話す機会が多くあるが、先行きの不透明感を嘆く声をよく耳にする。この状況は、ここ数年続いており、当面は現在の景気とおおむね変化なく推移する。
		会計事務所（職員）	・大企業は自分達の業績確保のため、下請に対する締め付けをますます強めてきている。現在の状態では、先行きに自信が持てないと考えている事業主も少なくない。
		コピーサービス業（管理担当）	・景気回復の兆しはなく、取引先は慎重で外部への資金流出を抑える傾向は強いいため、我々のような外部業者に仕事は回ってくる見込みがない。
		やや悪くなる	建設業（経営者）
		建設業（総務担当）	・新政権の公共投資に関する姿勢から見て、建設業には厳しい状況が続く。
	悪くなる	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・デパートや百貨店の売上減少に歯止めが掛からず、受注も減少する。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（支店長）	・中途採用の動き、新卒採用企業数の動きが出ており、底は脱した感がある。
		職業安定所（職員）	・欠員補充を含め新たに採用する環境にないとする声がある中、製造業では在庫調整が一段落し、新たな生産に伴い、徐々にだが求人意欲の高まりがある。
		職業安定所（職員）	・企業の求人募集に対する意欲は、少しずつ増加しつつある。
		民間職業紹介機関（職員）	・時期は定かではないが人を増やす計画があるなど、企業の潜在的な求人ニーズは増えているが、求人活動にまで現れていない。
	変わらない	人材派遣会社（担当者）	・わずかながら企業求人等が増えつつあり、以前よりは良くなっていくが、まだ景気が良くなるといえるほどではない。
		人材派遣会社（営業担当）	・技能職に関しては、自動車関連での求人が回復してくるのが年明けを予想しており、第3四半期での大幅な景気回復は見込めない。ただ、その他業種では、年末需要等が例年であれば2～3か月後あたりに発生する。
		求人情報誌製作会社（支社長）	・これからも求人数に大きな変化はない。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金等を申請している事業所から、9月、10月以降の受注見通しが全く立たないという話を聞く。また、今後の受注の見通しが立たなくなったことから、新規学卒求人を取り消す事業所も出た。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・昨年に比べ、求人件数が少ない。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（担当者）	・好転する様子が見受けられない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・9月の好業績も一過性のものと受け止める人が多く、これから年末に向けては厳しい見方の業界が多く、雇用も改善しない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・政権交代後、官公庁、各種団体、企業等様子見のようで、積極的な動きがない。	
	職業安定所（雇用開発担当）	・建設業者の中には仕事が全くなく、従業員を全員休業させる業者も少なからずある。また、自動車部品関連業者では10月以降の休業・教育訓練を上積み計画しているとの話がある。	
	悪くなる	-	-

#### 9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・年末需要に期待する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・政権交代で消費者も期待しているため、期待感が財布のひもを緩める。
		衣料品専門店（副店長）	・単価は来月から上昇し、今後、フェアが多くなっていくので、今よりは景気が良くなる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・2～3か月先には、年末近くになるためと、販売は好転するであろう。
		タクシー運転手	・11～12月及び年末にかけて、人の動き等が、多少良くなる。しかし、今年の今までの状況から考えると、忘年会等も縮小気味となるものと考えられる。
		観光名所（職員）	・政権が交代して、あらゆる政策が今後行われていくであろう。
	変わらない	商店街（代表者）	・年末年始は、特にボーナスの減少が見込まれるなかで、ますます消費者の財布のひもがかなり固くなっていく。冬物商戦も、暖冬が続けば、大変厳しい状況になる。浮揚する兆しは全くみえない。
		商店街（代表者）	・当地域の商店街は、再開発中であるが、来客数が全然伸びていない。各店の売上も非常に悪い。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・インフルエンザの影響や円高などが徐々に影響してくる。
		百貨店（営業担当）	・大型連休の影響もあり、商品群によっては売上高の若干の改善傾向がみられ、今後の推移に注目している。一方、時計、宝飾、美術品等の高額品については、動きが半減して厳しい状況が続いており、全体では先行きは変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・今後、セールの時期になってくるので、単価は低いまま推移する。
		スーパー（店長）	・これまで好調であった生鮮品も売上げが見込めない状況になっている。顧客は低価格志向のなか、必要な商品・必要な量だけを購入するという傾向が継続する。
		スーパー（店長）	・客数は若干増えても、単価が低いディスカウント状態が続いており、今後もこの状況が続く。
		コンビニ（総務）	・身近な経済状況が下げ止まっている感はあるが良くなっているような実感もなく、先行きの不安を抱えている現状が変わらず、消費喚起にもならない。
		衣料品専門店（経営者）	・衣替えの時期に入り、今年の場合は、レザーや女性のブーツ等、売れ筋商品もみえてきている。それなりの単価でもあるので、今までほど悪くはないと期待しているが、昨年も一昨年と比べて増えているので、前年水準を維持できるかどうかは不明である。
		衣料品専門店（総務担当）	・秋冬商材が動き出しているが、客単価の下落は続いており、売上の回復は難しく、依然として厳しい商況が続く。
		家電量販店（店長）	・家電業界は来年3月までは、政府のエコポイント政策が行われており、これに伴い、テレビ・エアコン・冷蔵庫の3品目が、現状通り、堅調に推移すると見込まれるため、動向は今と変わらない。
		家電量販店（営業担当）	・足元では販売台数が戻ってきているが、来店客数が今一つである。
		乗用車販売店（従業員）	・年末の新型ハイブリッド車投入もあり、明るいニュースはあるが、エコカー減税による特需も一段落してしまい、現状と変化はない。
		乗用車販売店（従業員）	・来月モデルチェンジする車の増販に期待しているが、新車購入補助金の対象車両の販売は減少しているかもしれない。
		乗用車販売店（従業員）	・現在までの状況を見て、良くなる要素がない。
		乗用車販売店（役員）	・円高やガソリンの高騰などの市場状況を考えると、今の状況から良くなるとも悪くなるともいえない。
		一般レストラン（経営者）	・8月の活気がうそのようにこのところ客足がばたきと止まっている。今後どうなるか見当がつかない。
		観光型旅館（経営者）	・9月は過去と比べてもかなり良い状態であったので、10～11月は例年並みと考える。総じて今の状態からそれほど変わらない。高速道路料金引下げによって、列車や飛行機と比べて、4人乗っても料金は同じという、車の経済性の良さが再発見されたのではないかと思う。高速道路料金引下げは四国にとっては非常にプラスになるのではないかと期待している。
		タクシー運転手	・自家用車が増えるばかりで、公共の乗り物の利用は増加が見込めない。一日の利用客も減少気味である。近距離の利用客はいるが、中遠距離の利用客は望めない。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（管理担当）	・端末取替えサイクルの延伸化が画的に回復される見込みは少ない。
		通信会社（企画）	・特に大きな要因がない。
		通信会社（支店長）	・経営を取り巻く環境については、更に競争激化しているものの、政権交代も今のところ影響がない。
		ゴルフ場（従業員）	・ゴルフシーズンになったが、予約状況を見ていると、まだ例年並みである。今後も、今月とあまり変わらない状況と考える。
		競艇場（職員）	・今後、場内売上が順調に増加する要因は乏しく、若干の減少もしくは現状維持で推移するのではないかと考える。
		美容室（経営者）	・年末の繁盛期に期待したいところだが、現状は良くも悪くもなく、今後も変化はないと思う。
		美容室（経営者）	・年末になると多少来客数は増えると思うが、景気が良くなるとは思わない。
	やや悪くなる	乗用車販売店（営業担当）	・新車購入補助金制度のうち、車齢13年超車の代替需要が7～9月に集中し、需要を押し上げたが、今後、この需要が急変し、悪化する不安がある。
		一般レストラン（経営者）	・企業業績悪化による冬期賞与への不安から、買物頻度を控える状況が発生すると考える。
		都市型ホテル（経営者）	・現在の予約状況は昨年と比べると悪い。予約が入っているところでも、単価が落ちている。まだまだ上向きになっているとは言い難いし、もう少し悪くなるのではないかと感じる。
		旅行代理店（支店長）	・引き続き、新型インフルエンザの影響で、旅行を見合わせる傾向がある。秋の行楽シーズンに向け、特に企業における親睦旅行等の団体旅行の自粛、学校における学級・学年閉鎖の影響による修学旅行等の中止・延期が懸念される。
		タクシー運転手	・年末に近づき、本来なら良くなるのだろうが、今の現状を見てみると、新型インフルエンザ、高速道路料金無料化の動きなど、タクシー業界にとってはマイナス要因ばかりで、この先が心配である。更に、夜になってから飲みに出る人が少ないので、客が極端に減っている。乗車しても短距離であったりするなど、厳しい状況が続くと考える。
	設計事務所（職員）	・公共事業の減少により、地方部では建設業従事者の失業者はさらに増え、負の連鎖が拡大すると思う。建設業の先行き不透明感、地方の消費を予想以上に落ち込ませているようで、今後も一段とその傾向は強まる。建築数減、中古車の販売台数減などの話を、事業主からよく聞く。	
	悪くなる	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・卸売業者の実質破たんによる統合、同業者内では勝ち組と評価されていた大手小売店の相次ぐ廃業、販売先料飲店からの値下げ要請に一向に歯止めがかからず、むしろエスカレートしている。
		スーパー（店長）	・消費者はいろいろなスーパーを回って、安い物を買っている様子である。景気が良くなっている業界もあるようだが、我々の業界では、このままでは更に悪くなっていくと考える。
衣料品専門店（経営者）		・現状では訴求をしてもお客の反応が悪い。	
その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）		・良くなる要素が全く見当たらない。	
設計事務所（所長）		・政権交代によって、現在、決定している公共事業まで、中止になってしまうのではないかと感じる大きな不安がある。	
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・一番消費が多い12月に向けて、少しずつ受注が増えている。
		建設業（総務担当）	・米国の大手金融機関の破たん以降凍結されていた、工場の増設計画が解除された。このため、今後、大型の案件が出てくるものと大いに期待する。
		通信業（部長）	・節約志向は変わらないものの、新規提案に対する採用のハードルが少し低くなってきており、この傾向は今後も続くものと考えられる。
		通信業（営業担当）	・来月から秋の行楽シーズンを迎えるし、子供の秋休み、連休を利用して日帰りではなく、1～3泊での旅行計画を立てている話を、ゴールデンウィークや9月の大型連休の時より、身近で聞くことが多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	鉄鋼業（総務・人事統括）	・受注は春以降持ち直し方向で推移してきたが、受注量は前年の水準を相当下回っている。また、ここきて一部の商品では、製造量にピークアウトの気配が感じられる。
		輸送業（社員）	・取引企業の出荷数量の状況を見ると、昨年よりも持ち直ししているものの、一昨年の数量までには回復しておらず、株価及び原油価格の影響もあり、当面現状からは変わらない。
		広告代理店（経営者）	・広告をしても物が売れないという消費不振のため、多くの得意先で広告費の削減が著しくなっている。プラス面としては大型ショッピングセンターが、競争激化のため周辺県からの集客広告展開をしている。全体としては今後の広告費受注予測が非常に難しくなっている。
		公認会計士	・異業種の社長と話をすると、将来の景気については、高速道路料金の無料化に対する期待がある一方、資金繰りの悪化や設備投資に消極的という話も出ており、総じて、向こう3か月の景気は今とあまり変わらないと考える。
	やや悪くなる	木材木製品製造業（経営者）	・予算が決まるまでは、確かなことは言えないが、公共事業中止の動きがみられる。今後、デフレの継続やリストラの懸念もある。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・海外の受注は従来よりも悪くなっている。
		建設業（経営者）	・公共事業が減りそうであるため、景気はやや悪くなる。
		不動産業（経営者）	・最近、客の動きが非常に悪くなってきている。広告を打っても人が集まらず、客も様子見の状態である。解決の糸口が全然みえない。
		広告代理店（経営者）	・政権交代により、一部の業種については仕事が見えない状態にある。
	悪くなる	-	-
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・企業の新卒採用は顕著に回復しているが、研修の導入が予測より鈍化しているため、総じて横ばいの予測である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・当地では企業収益が落ち続けており、雇用確保が喫緊の課題である。子育て支援、ガソリンの暫定税率廃止、高速道路料金無料化などが実施されるまでは消費にお金が回る材料がない。
		職業安定所（職員）	・新規出店の小売業でも新規求人数は少なく、企業内の人事異動で対応するなど、当分、新店舗による求人は望めそうもない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業などから送られてくる求人数が、少ないなりに安定してきている。累計では昨年より100件近く少ないが、月別求人数は、7月は34件、8月は37件、9月は44件であり、落ちついてきている。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・景気が良くなると思う材料が依然見受けられない。
		職業安定所（職員）	・消費意欲低迷で、すぐに必要としない物は当然ながら売れないようである。この先、景気対策が個人に向けられたとしても、安価で環境に優しい物や、育児・教育サービス、介護サービスに需要が移ると思われるため、異業種転換ができない会社は、順次、廃業や倒産が予想される。
		民間職業紹介機関（所長）	・企業側の求人数が激減している、また、今後、基幹産業の企業のなかで、人員整理を考えている企業も少なくない。
	悪くなる	-	-

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	乗用車販売店（管理担当）	・エコカー減税、補助金が継続される限り需要は続く。ただスクラップ車が多くなってきている関係で中古車の下取りが少なく、中古車に対する客のニーズも少なくなっている。
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・消費は最悪期を脱しそうである。消費者心理から買い控えも長くは続かず、慎重に選択した上で購買する消費が始まる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業企画担当）	・前年の米国の大手金融機関の破たんから1年を経過しており、前年からやや回復すると見ている。新政権となり二酸化炭素25パーセントの削減公約で、製造業等、業界ごとの良し悪しが際立ってくる。一般の消費については大きな変化がなく、前年の落ち込みからやや回復する。この傾向が今後も続く。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・前年、タスポが導入されてコンビニは非常に潤ったが、その効果が月を追うごとに薄れてきていた。業績が下がっていた前年のトレンドを考慮すると、今年はその反動で改善する。
		家電量販店（店員）	・エコポイント効果で売上が伸びる。特に12月は、テレビの需要がここ数年で最高となる。ただ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機販売の不振というマイナス要因があるので、若干良くなる程度にとどまる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・現在が底と見られるので、消費は、短期では回復しないが新政府の対応策いかんで元気が出てくる可能性が高い。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・秋の行楽シーズンを迎えるため商品の販売量は増えるだろうが、購入単価が抑制気味のため、売上は増えない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・手持ち予約の状況は前年とほぼ同様で推移しており、来月以降の問い合わせも例年より多い。
		ゴルフ場（支配人）	・客の会話から、新政権での景気対策などへの期待も伺え、消費はやや上向きになる。
		音楽教室	・高額商品を購入してくれる人がもう少しいるようであれば、音楽関連業界はかなり景気が良くなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・収入が増える状況にないことが購買力低下に大きく影響している。気候が良くなり多少売上の伸びはあるかもしれないが、前年と比較してその伸び率はほとんどない。
		商店街（代表者）	・中高年層の年代はボーナスが出て住宅ローン、教育費、車のローン等で半分以上出費されるため、今後は食に対する出費が控えられる。
		商店街（代表者）	・景気が上向きになる要素が全くないため、悪い状態のまま推移する。
		商店街（代表者）	・補正予算の執行の遅れが非常に懸念される。
		商店街（代表者）	・9月中旬より政権交代があり、「日本がすべての面で変わり、景気も良くなるのではないか。」という期待感が客の表情に表れるかウォッチしていたが、表情は変わっていない。客は今後の生活に不安があり、景気は依然として低迷する。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・景気回復をしても消費者の購買意欲はすぐには戻らないため、ここ数か月はよい結果は出ない。
	百貨店（営業担当）	・友の会満会への客の関心が高く、現金を残し金券で目的買いする客が目立つ。また、次年度の入会も好調で、友の会を使ってお得に買物する客が増えている。金券での自家商品の購入やデイリーの食品の購入は堅調である。	
	百貨店（営業担当）	・客単価が確実に下がっている。単価の下落に歯止めをかけるためには購買数量そのものを上げる必要があるため、今後は軽衣料をつまく攻めて行こうと思っているが、単価はなかなか改善しない。	
	百貨店（売場担当）	・今月は回復したような印象である。9月の大型連休期間中にかなり数字が伸びているので、上ぶれしている可能性もあるが、前年のリバウンドによる落ち込みもみられない。ただし、今後の雇用状況の悪化から可処分所得が減少することが懸念される。商店街にも若干人が戻ってきており、空き店舗も少し埋まっているという話もあるため、今後は、変わらないか、わずかに良くなる。	
	百貨店（企画）	・相変わらず厳しい雇用環境等を勘案した場合、なかなか良い方向へ変わることは考え難い。逆に新型インフルエンザの流行次第では急激に悪化することも十分予想される。新政権に変わり、早く景気対策への実績を挙げ、局面が変わることを期待している。	
	百貨店（業務担当）	・これからもっと商況は厳しくなる。政策的に購入が得するものは、家電、エコカーと限定的であり、可処分所得が減少するなかで使い道が衣料品や雑貨に回ってきておらず、百貨店、スーパーの売上は厳しさを増す。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・政権は変わってもまだ具体的な見通しが立っておらず、客の先行き不安感、不透明感は続いており、急速に景気が回復することはない。
		スーパー（店長）	・商品の低価格志向がさらに進むなかで、企業のコスト削減だけでは利益が出にくくなっており、所得減は避けられない。そのため消費に対する節約志向はまだまだ続く。
		スーパー（店長）	・底打ち感を感じるが、先行き不安による購買意欲の鈍化、買い控え傾向から脱せず、特売頻度の上昇、価格下落等によりデフレが進行しそうである。
		スーパー（総務担当）	・全体的にデフレ傾向で、同業他社ともに価格引き下げが続いている。客の購買への反応はあまり良くない状態が続く。
		スーパー（総務担当）	・現在の景気低迷がこのまま推移し、客の購買力、家計支出は依然として伸びない。個人消費が伸びないので小売業は厳しい状況が続く。
		スーパー（企画担当）	・政権交代はあったものの依然として著しい景気回復の兆しは見えず、消費者の購買動向も良くなる材料は少ない。したがって、当分は現状の景気低迷のままである。
		衣料品専門店（経営者）	・来客数や買物の様子を見ても良くなったという感じは全くない。この傾向が今後も続く。
		衣料品専門店（店員）	・一気に景気が良くなるとは思えないが、外出等のきっかけさえあれば新しい服を購入する客が増えるので、悪くはならない。
		家電量販店（総務担当）	・景気回復が消費者レベルで実感できるようになるまでには、しばらく時間がかかる。
		乗用車販売店（従業員）	・自動車用部品の販売が前年より落ち込んでいる。この傾向が今後も続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・販売量の動きを注意深く見ているが、景気が上向いたという実感が無い。今の販売量が上向きになるということにはならない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・10、11月も3連休が予定されており、レジャー等の消費による販売量増加が期待される。消費につながっていくことを期待したいが、9月の大型連休もそうだったように、客の財布のひもは固い。
		高級レストラン（支配人）	・寒くなるまではこの良い状況が続くと思われるが、11月以降の状況は新型インフルエンザの流行次第である。
		スナック（経営者）	・明るい材料が見当たらない。このまま商売を続けるかどうか真剣に考えなければいけない状況にきている。
		観光型旅館	・高速道路料金値下げは、休日に集中させるだけの効果しかないため、その分平日の売上が落ちてしまっている。このことは、節約志向が強く現れている証拠であり、人の流れが偏るだけで、全体の伸びは期待できそうもない。
		都市型ホテル（総支配人）	・日経平均株価や為替動向は変動が激しく不安定な状況のため、今後も海外客層の需要は見込めない。
		旅行代理店（従業員）	・9月の大型連休の反動で個人旅行の動きが悪い。ただし、団体客は新型インフルエンザの振り替えなどで少し戻ってきており、全体としては現在の傾向が続く。
		旅行代理店（業務担当）	・景況感が大幅に改善しない限り、法人・個人需要ともに回復は期待できない。
		タクシー運転手	・結婚式が多い時期であるが、タクシーを利用する客がほとんどおらず、大型バスでの送迎がほとんどである。悪い状況が続く。また、公務員関係の客は給料が下がることを懸念している。
		タクシー運転手	・今年は客の動きが読めず、その時にならないと客の動きがわからない状態が続いている。
		通信会社（営業担当）	・法人客の携帯電話の利用が伸び悩んでいる。
		通信会社（企画担当）	・今月の販売増は単なる振れ幅の範囲かもしれないため、引き続き楽観できる要素がないものの、悲観要因も見当たらない。
		通信会社（総務担当）	・景気動向は下げ止まり感があるものの、依然として個人消費は弱い動きで雇用・所得も悪化していることから、当社の加入推進はこのままでは計画未達成に終ることになる。10月よりキャンペーン等で新戦略を取り入れ、事業計画を達成したい。
		通信会社（業務担当）	・10月は今月同様、携帯電話の新規需要の頭打ちと買換えサイクルの長期化のため来客数が少なく、販売数は伸びない。
		通信会社（企画担当）	・今後2、3か月程度で、景気が大きく変動しそうな要素がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（職員）	・10月からいよいよゴルフの本格的なシーズンを迎えるが、ゴルフや宿泊ともに予約の伸びは良く横ばい。全体ではやや減少する見込みである。
		理容室（経営者）	・先月から前年実績をなかなかクリアできない月が続いている。この傾向が今後も続く。
		美容室（店長）	・安価でほどほどのものがあれば、高価なものは買いたくないという気持ちが一般的になっている。現在の料金を下げるわけにはいかず、現状のままでは不安である。
	やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・来客数、1人当たりの買上単価が前年比で減少し続けており、今後この傾向はますます強くなる。
		スーパー（店長）	・既存店舗の売上（前年比）のばらつきが大きくなっている。特に店舗年齢が高い店舗にその傾向が強く出始めている。
		スーパー（店長）	・秋物衣料も動きが悪く、衣料品自体の伸びがないということは、食料品が売れてもなかなか売上全体が上がってこないということである。衣料品が売上を回復しない限り、良い状況にはならない。
		スーパー（店長）	・今後もこのような状況が続いていく。衣料品、食料品も買い控えで不必要なものは買わない状況が続き、競合店がつぶれた場合に売上が上がるという状況である。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・来月も連休があり、客の財布のひもが締まっている。客数も思うように伸びず、これから年末商戦に向けて客数をどのように確保していくかが課題であるが、なかなか増えないのが現状である。
		乗用車販売店（従業員）	・新政権になり、補助金がなくなるのであれば、販売が落ち込むことが懸念される。
		自動車備品販売店（従業員）	・ETCに代わる商品がないため、現在の傾向が今後も続く。
		住関連専門店（経営者）	・置き家具業界は地方の景気回復を感じないが、先月に引き続き今後半より新企画を始めたので、今後はこの企画に期待している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・婚礼は競合他社の新規参入で秋以降も苦戦を強いられる。他部門も予算が大きく、婚礼予算をカバーすることができない。
		都市型ホテル（副支配人）	・各企業とも厳しい状況が続くなか、出張の抑制が恒常化している。また、新型インフルエンザのニュースが流れるにつれ、業績が不安定になってきている。
		タクシー運転手	・大きなイベントがない限り、客の財布のひもはかなり固い。給料も減っており、今後も厳しい状況が続く。
		ゴルフ場（従業員）	・年末に向かい予約数が前年より約1割減りつつあり、依然厳しい状況である。また、近隣のゴルフ場が価格を下げたため、こちらとしてもその値段でやむを得ず営業している状態である。人件費のコストをカットしたり、契約社員にしたりしてしのいでいる。
		美容室（経営者）	・年末年始で美容業界は一番の繁忙期になるはずだが、今のままの低迷が続いていくと、オーバーストアの上に客の購買意欲が上がってこない。お洒落意欲が上がってこないのではと非常に心配している。客の購買意欲を上げる政策を打ってほしい。
	悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・来客数と客単価については、今後の状況が変わる要因がないため、上向きにならない。
		コンビニ（販売促進担当）	・物が売れないため低価格を打ち出して売上、販売個数を上げている状況であるが、いずれにしても消費のパイが決まっているため、十分な売上・販売個数は確保できていない。客の様子をみていると、低価格帯の商品でさえも最近伸び悩んでいる状況で、先々の不安材料から客の財布のひもは一段と固くなっている。
		衣料品専門店（店長）	・秋らしい気候にならず、客も衣料品を買う気が起こっていないため、売上は伸びない。
		高級レストラン（経営者）	・政治が落ち着かない限り会社関係の動きが取れずに接待や社用の分が鈍い。今後年末は繁忙期に入るが会社関係の忘年会や個人客もどんどん引き入れていかなければならない。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・中心商店街も人の流れがなく活気がない。
		美容室（店長）	・一般サラリーマンの給料が上がらないので悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		設計事務所（所長）	・新政権に変わり、より公共工事が減ると思われるので悪くなる。公共工事も大規模なものは別として小規模なものをもっと増やしてほしい。	
企業動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-	
		農林水産業（従業者）	・食肉関係が必要期に入るので価格はやや上向き、飼料関係は円高等でやや安くなるため、全体的にやや良くなる。	
		一般機械器具製造業（経営者）	・引き合い見積が出てきているので、今後もある程度仕事量が増える。	
			輸送用機械器具製造業（営業担当）	・下期の販売計画では増収が見込まれる。
	変わらない		農林水産業（経営者）	・10、11月の行楽シーズンに入るため末端消費者の消費に期待したいが、今年は少し違う様相である。加工メーカー向けの納品も9月の状況から判断するとあまり期待できない。
			食料品製造業（経営者）	・年内は季節性の商材が比較的順調に売れる。
			家具製造業（従業者）	・新政権になり、補助事業の申請案件（申請可決決定）が完全に止まっている。海外での販売促進に対する補助事業であっただけに残念である。また公共事業の見直しなどで少なからず影響があり、今後も悪影響が心配される。
			窯業・土石製品製造業（経営者）	・今の状態ではなかなか長期の受注が難しく、その場限りの受注でしのいでいる。現在は雇用調整助成金を使い、休業補償や教育訓練等を行っている状況である。単価も厳しく、競争も激しくなっている。
			鉄鋼業（経営者）	・新設住宅着工戸数や建築着工床面積の大幅減少が続いており、建材需要の回復の兆しは全く見えない。一部に需要回復の業種もあるが、新規設備投資にはいまだほど遠い状態であり、仮に計画されても具体的に建築需要に結び付くまでには更に時間がかかると予測される。
			金属製品製造業（企画担当）	・受注量・販売量ともに回復の兆しがみられない。
			一般機械器具製造業（経営者）	・悪い状況が改善するような話がない。一時見積依頼が出て期待感が持てたが、発注側は以前と違い価格のみを見ており、安ければどの企業でも良いという状況である。今回ほど、製造大企業のエゴを感じたことはない。
			電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連の大手、中堅企業共に、足元においては多少動きが出ている。しかし先行きは、大手、中堅企業から良い回答がもらえず、まだまだ不安定な状況が続いていく。また精密機械部品においてもより一層悪化の懸念があり、全般としても非常に不安定で不透明な状況が続く。
			輸送業（従業者）	・景気が好転する要因が全く見つからない。
			輸送業（総務担当）	・良くなる要素は見られないので、現状維持で推移する。
			通信業（職員）	・情報通信部門は不況下でも比較的良好な受注状況が続いているが、今後、補正予算、補助事業等に関する政権交代の影響から状況が変化する可能性はある。
			金融業	・大手企業の在庫調整が終了し、発注はわずかに回復しているが、少なくとも1年前の好景気に戻る見込みはない。大手企業は今後発注先を選別すると思われるが、2、3か月先というほど切迫してはいない。2、3か月先までの中小零細企業の資金繰りは一服しており、景気は今と変わらない。
			金融業（営業職渉外係）	・円高等の影響もあり、企業の業績の低迷は今後も続く。新政権による即効性のある景気対策が必要であるが、法案の成立・施行までは時間を要することから、しばらくは景気回復は見込めない。
			金融業（調査担当）	・徐々に生産活動が回復しているものの、個人消費については下げ止まっておらず、景況感は当面現状が継続する。
			金融業（得意先担当）	・公共工事の前倒し発注に伴う受注量の増加が続いているなかで、今後もこの状況がしばらく続く。決して景気が上向いたということではなく、逆に景気が悪いなかで公共工事の前倒し発注が行われているということである。
			金融業（営業担当）	・取引中小企業の大半は赤字の改善、補てんで精一杯であり、設備投資、企業買収等の前向きな資金需要計画の情報は少ない。
		不動産業（従業者）	・住宅販売の値下げが続いており、当面は低調な状況が続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（従業員）	・9月の新聞折込広告枚数は前年比6%減と相変わらず低調な状態が続いている。さすがに下げ止まりの状態だが、上向き状態にはない。パチンコ等の娯楽業の枚数は前年を上回っているが、主力のスーパー、不動産業の枚数が増えない。
		経営コンサルタント	・一時期の閉塞感からするといくらか明るさを取り戻しつつあるが、金融機関関係の政策上の問題で今後どのようなか、あるいは為替の問題が大きくせつかく伸びてきている輸出産業にまた大きなダメージが出るのではないかと、非常に不確定な要素が大きく、必ずしも一本調子で上がるとは考えにくい。ただ、地方の経済は新政権によって大分変わってきているので、いくらかプラス要因に動く。
		経営コンサルタント	・消費意欲の冷え込みにより伸び悩む。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先に状況を聞いても、数か月は厳しい状況が続くそうであるという意見が大半である。
	やや悪くなる	繊維工業（営業担当）	・まだ失業率が増えていくと思われるので、景気は良くならない。
		建設業（従業員）	・現在は公共工事の前倒し等でそこそこの仕事量はあるが、採算性の面からすると大変厳しい現状が続いている。また、前倒し分が終了すると公共工事も底をつき、仕事量も激減する。
		建設業（社員）	・新政権の補正予算に対する見直しが、景気を悪くすることを懸念している。
		その他サービス業 [ 商品リース ]（従業員）	・当社を含め取引先においても良い話はなかなか聞かれず、何とか現有資産で耐えしのぎ苦境を脱しようとの気配が強い。政権交代による公共予算の凍結・見直し等、市場活性化の策が見えない状況では、更に厳しさが増す。
	悪くなる	食料品製造業（経営者）	・新型インフルエンザの流行レベルは確実に上昇しつつあり、これが南九州への観光客数の減少につながる事が予想される。ただでさえ景気の悪化により業績が低迷している状況であり、大きな打撃となりかねない。
		その他サービス業	・予算削減のため、建設コンサルタントへの委託業務が年々減少している。1つの物件が予算化されていると、従来は関係のなかった他の分野の業者が複数で低価格の見積を提出して営業活動を行うため、これまで指名されていた業者が指名から外れるなど影響が出ている。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（管理担当）	・派遣業界にとっては案件増は依然見込めず、派遣先企業にとっては体力勝負の我慢の時期が続く。また、新政権になり業界にとってはますます旗色が悪くなるのではとの印象もあり、今後に対する期待感もあまり持てない。
		職業安定所（職員）	・各種の経済対策等の効果を期待しているが、求人にはつながっていない。
		職業安定所（職員）	・景気の先行き不透明感により企業の求人意欲が上昇してこない状況にあるため、新規求人数が増加せず、求職者の失業期間が長期化する傾向にある。
		職業安定所（職員）	・7月の失業率は5.7%と過去最悪を更新し、有効求人倍率はさらに悪化している。失業の増加が個人消費を低下させ、それがさらに投資や雇用の削減を生むという悪循環にある。雇用調整助成金は250万人もの雇用を下支えしており、失業者の増加を抑えている。雇用の悪化、収入の減少、物価の下落及び世界経済の不況下にあり景気が良くなる材料は今のところ見当たらない。
		学校 [ 大学 ]（就職担当者）	・2010年3月卒業予定対象の求人件数は、今後増加に転じることがなく、低調なまま推移する。代わりに2011年3月卒業予定対象の求人の動きが出てくると予想されるが、この現象は求人・求職活動の早期化によるものであり、景気回復等を示すものではない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・新政権になり、派遣法改正がどの程度変わるのかによって、人材派遣業界が受ける影響が異なってくる。また、人材派遣を利用できなくなると思い込んでいる取引先も多い。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・サービス産業が中心の福岡では消費が低迷している状況で、年末商戦に多くの人材確保が必要になるとは考えにくい。景気は一段と厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関(支店長)	・年度後半の人材需要の伸びを期待できる材料がほとんどない。例年なら注文が入るはずの年末年始の繁忙期需要も、現状ではほとんどない。また、9月末契約終了者の「後任不補充」の顧客が非常に多い。
	悪くなる	人材派遣会社(社員)	・半導体関連が上向いているとの情報があるが、雇用状況に変わりはなく、事務職での派遣依頼は来ていない状況である。
		民間職業紹介機関(社員)	・新政権による派遣法改正をにらみ、企業が従来の派遣社員、契約社員を直接雇用化したり、臨時採用は最初から直接雇用をするなどの動きが増加している。派遣を利用している企業の派遣離れが進展する気配がある。

11. 沖縄(地域別調査機関:(財)南西地域産業活性化センター)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ(経営者)	・おでんの売上が順調になってきている。また、割引セールも行うので、良くなる。
		旅行代理店(代表取締役)	・冬場の観光は団体シーズンを迎えるので、新型インフルエンザ等の影響が無ければ順調に良くなる。
		通信会社(店長)	・11月より新商品の発売が始まり、2年前に割賦で購入した商品の交換時期とも重なるので、年末商戦は期待が持てる。
		ゴルフ場(経営者)	・来客数の数字としては上がってきている傾向があるので、少しは良くなる。
	変わらない	百貨店(営業担当)	・政権交代による様々な公共事業の見直しや社会制度の変革により景気の停滞感にも変化が見られる可能性もあるが、長引いている不況感をぬぐい去る事は容易でなく、即消費行動に影響するとは考えづらい。消費者は少なくとも年内は様子を見ることが予想される。
		スーパー(販売企画担当)	・単価安、客数減などによる売上の落ち込みは続いている。明るい材料も無いので、このままの状態が続く。
		コンビニ(経営者)	・来客数は回復基調であるが、客単価が下がっているため、回復の見込みは無い。
		コンビニ(エリア担当)	・店の新旧を問わず、購買する点数、金額はシビアなままである。今後客単価が上がることは無いので、集客力に左右される。店舗力も関係するが、家から近い、入りやすい等立地上有利な店舗に分がある。
		衣料品専門店(経営者)	・前年同月と比べて、季節物の買物をする客が少ない。買い控えが結構ある。
		衣料品専門店(経営者)	・年内はもうあまり景気自体変わらない。しかし政権も交代し、来年以降は何かしら日本の経済も変わると予想する。すぐに良くなるはならないが、人々の気持ちにも前向きな変化が出るであろうし、期待したい。
		その他専門店[書籍](店長)	・雑誌の特集なども貯蓄を勧めるものであったり、節約生活を勧めるものであったりと消費を促すような記事など一切無い。現実問題今後の政策によって明るい兆しが見えるか、そうでないかが全くの不透明である。
		観光型ホテル(マーケティング担当)	・今月に関しては、稼働率が大きく前年度を下回っており、この先も景気低迷に伴う消費マインドの低迷によって受注が思うように伸びない状況である。また夏季シーズンが終わり、沖縄もオフシーズンへと向かい、尚更大きな需要増が見込めない厳しい状況が予測される。
		通信会社(店長)	・良くなる要素、悪くなる要素が見当たらない。
		通信会社(サービス担当)	・政権が代わり期待感はあるが、税負担などで様子見の方が多い。
住宅販売会社(商品開発担当)	・改善する気配は全く感じられない。今後は、客の要望にいかにかたえるかなど、打つ手を考えて企業努力をしていかなければ生き残れないと強く感じる。		
やや悪くなる	その他専門店[楽器](経営者)	・不景気感と新型インフルエンザの影響で、年末年始まで来客数や売上の増加には期待できそうもない。	
	その他飲食[居酒屋](経営者)	・観光客が落ち着いてきているので、平日の地元客の夕食回数を増やさないといけないが、従業員が少ないなかで、非常に安くて、おいしくて、その上サービスも雰囲気も良くて、なおかつ外商活動を徹底しないと来客数が取れない厳しい環境にある。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（職員）	・これからの旅行環境は新型インフルエンザの全国的な感染拡大と、死亡者報道で厳しい状況が考えられる。県外からの入域観光客へ頼る沖縄観光は、修学旅行のキャンセルとますます厳しい状況が予想される。
	悪くなる	商店街（代表者）	・数か月前から流行している新型インフルエンザの影響もあるかと考えられるが、観光客も微妙に減少しており、地元客も出控えか、あるいは買い控えかで、全般的に来客数が減っている。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（管理部門）	・一部主原料価格が下がり、円高の状況も継続している。
	変わらない	建設業（経営者）	・住宅展示場や、完成住宅見学会に来場客数はあるが、それが成約に至るまでの時間が長期化しつつある。
		輸送業（営業担当）	・景気の低迷が続いていることによる取引先の物流費削減や新型インフルエンザの影響による観光客減、県民の外出抑制などにより需要の低迷が続き、回復の兆しは見られない。
		輸送業（代表者）	・政権交代による公共工事補正予算の発注に不安はあるが、離島地区では大型物件の発注時期となっている。ただし、民間物件は振るわない。
		通信業（営業担当）	・相変わらず受注案件は無く、発注先でも仕事が少なく外注する程の仕事が確保されていない状況である。
		広告代理店（営業担当）	・政権交代による補助事業凍結の動きに加え、新型インフルエンザによる観光入域客数の減少予想などを考慮すると、現在の低迷する景気が回復する見通しは厳しい。
		会計事務所（所長）	・新型インフルエンザ騒動が収まりを見せているが、「沖縄＝インフルエンザ」という思考が定着すると、主要産業である観光に今後大きな影響がある。
やや悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・新規の建設工事予定物件が減少すると予想され、製品出荷が鈍る見通しである。	
悪くなる	-	-	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・派遣依頼の減少は求人誌の募集減からも同様な状況があり、しばらくは今の状態が推移しそうである。ただ、最近、建設関係の依頼が続き面白い傾向も出ている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・県外製造業の求人増加に伴う派遣、業務請負企業の求人の伸び、といったプラス材料に若干の期待があるが、新型インフルエンザの流行による入域観光客数の減少予測というマイナス材料の懸念もある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・県外製造業が少しずつ持ち直しているが、依然として厳しい雇用環境は続く。
	やや悪くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・県外求人の減少、県内企業の様子見の傾向が今後も止まらない。
	悪くなる	-	-